

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 令和7年度活動報告

添付書類①地域移行推進班提言書

添付書類②令和7年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会部会報告書

添付書類③就労選択支援サービスプロジェクト会議就労選択支援の手引き

長浜米原しょうがい者自立支援協議会事務局

I 長浜米原しょうがい者自立支援協議会の概要

I 基本理念

地域自立支援協議会(以下「協議会」と言う。)の意義は、①相談支援を中心としたしょうがい者等への支援体制の整備を図ること、②「人と人をつなぐこと」、「地域で暮らし続けられるまちを作るための仕組みを発案して実働していくこと」、③「しょうがい福祉の関係者以外の人もつながること」です。

協議会運営の特徴として、「要求や陳情を行う側と受け止める側」といった関係性ではなく、立場や経験や職種の違う方たちが、同じテーブルに座って、一緒に汗をかきながら考え、知恵を出し合い、動いていくということにあります。協議会に必要なことは「対立」ではなく「協働」です。「誰かがやってくれる」「〇〇がこのようにすべきだ」ではなく、「目的を達成するためにはどうすればいいのか」を協議会の構成員一人ひとりが主体的に自分の頭で考えることが必要です。自分の所属の立場に拘束されず、無責任にならず、率直な話し合いができて、なにかが変わっていく夢や希望を持てる会議体にしていく意識をもって参加することが大切です。

また、当事者が参画することで支援者同士では気づかない課題を顕在化できる場合があることを念頭におき、当事者が持つ思いこそがしょうがい者を支援する人々の最も重視すべきことであることを認識し、ともに住みやすいまちを作っていく活動が協議会の特徴です。

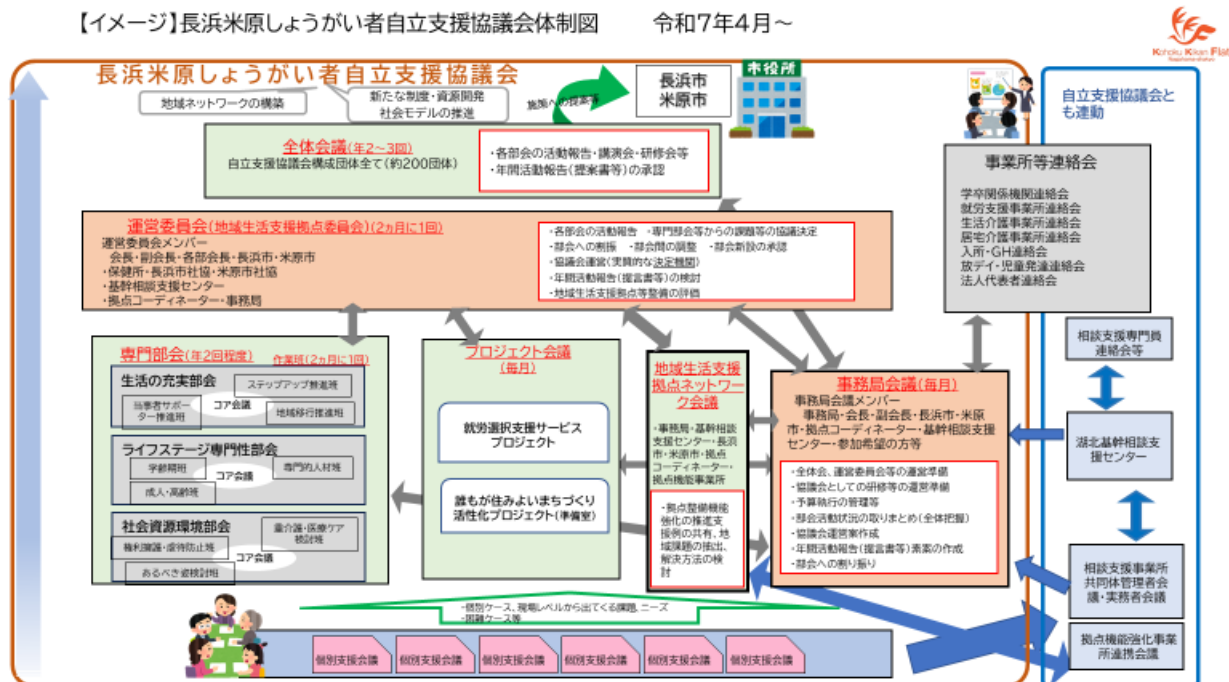
現実的には多くの課題があるが、優先順位をつけて「できることから行っていく」、「具体的な協議や取り組みを重ね、積み上げて」いくことから始めていきたいと考えます。

2 目的・役割

協議会は、この湖北地域に暮らしているしょうがいのある人たちが、住み慣れた環境で、また住みたい場所で、いきいきと暮らし、共に育ち学び働き続けられることを目指し、しょうがいのある人たちとその家族、及び教育医療労働福祉その他携わる関係者が一緒になり課題を整理・協議して、解決していくものとする。そして、それを達成していくために、障害者権利条約や障害者基本法をベースとした、湖北地域全体で包括するような社会モデルのシステム・施策を立案し、推進していくことを目的としています。

表1

3 組織構成図

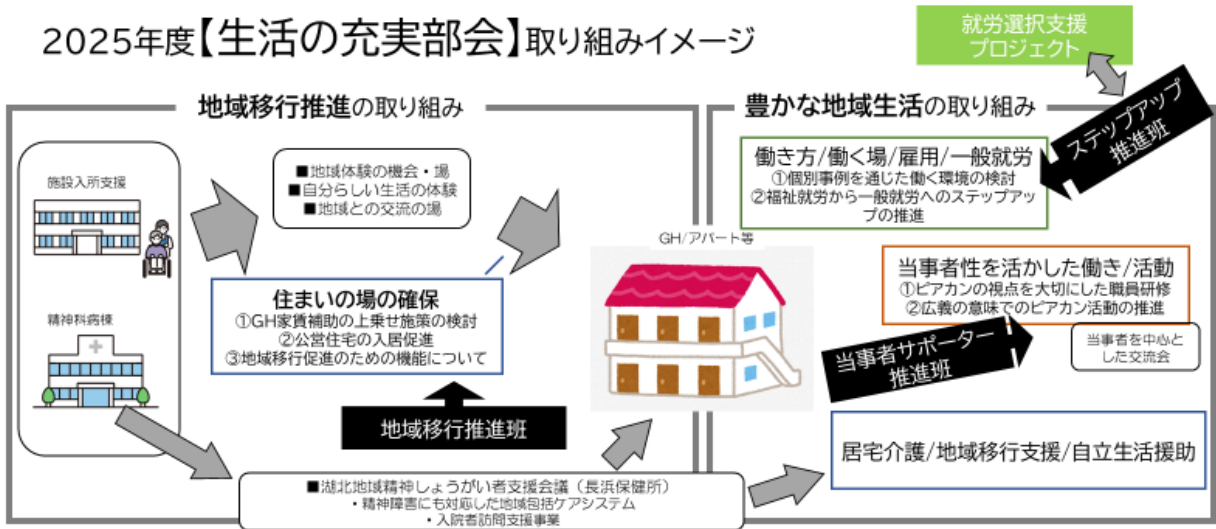


4 令和7年度の取り組み方針

- 3つの専門部会を課題ごとに3つの作業班に分け、令和5年度から継続する形で協議・取組みを実施します
- 就労選択支援サービスプロジェクトについては、令和5年度に国のモデル事業を受諾した事業所を中心に圏域の枠組みについて、令和6年度から継続的に協議を実施します
- 「誰もが住みよいまちづくり」活性化プロジェクト(仮称)(準備室:事務局)⇒4/15長浜曳山祭りや10/4わた SHIGA 輝く国スポ・障スポの売店出店等、圏域で開催されるイベントにおいて、福祉サービス事業所で制作・製造している商品を販売。また、販売等でのやりとりを通じて、一般市民への啓発活動として実施します(※各専門部会等の検討項目は、下記表2、3、4を参照)
- 協議会の活動を見える化し積極的に発信します(かわら版の発行、年間スケジュールの決定、ホームページの活用、会議録の掲載等)

表2

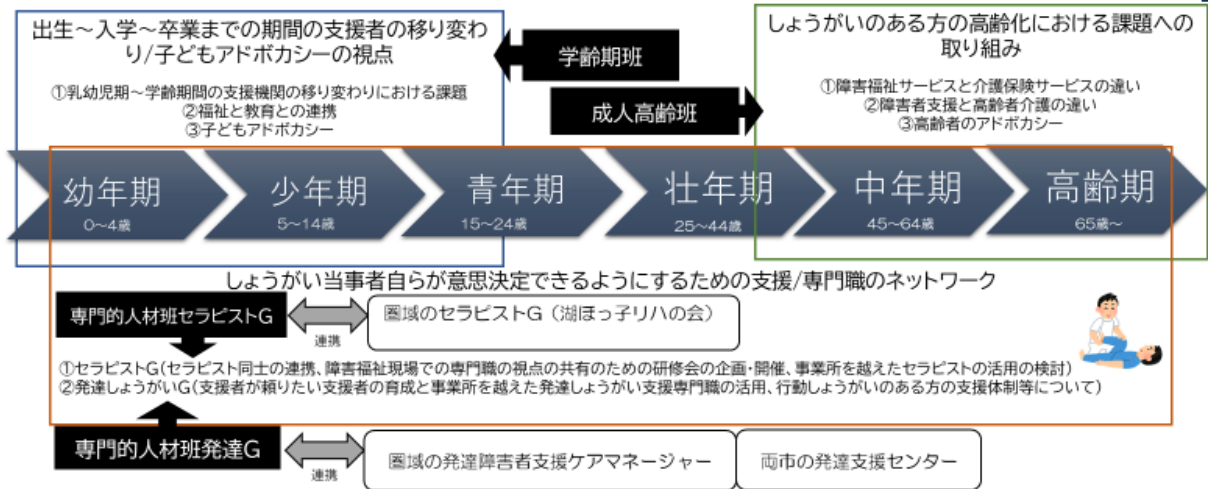
2025年度【生活の充実部会】取り組みイメージ



ステップアップ推進班:働きたいところで働ける環境の検討。就労継続A型/B型から一般就労への推進を検討。
 当事者サポーター推進班:しょうがい当事者を支えるサポーター(ピアコン/当事者性を活かした活動)の活躍の場の検討
 地域移行推進班:地域移行の壁となる主に住まいの場の金銭面に対する施策の検討。個別ケースを通じて、圏域として地域移行を推進する取組みについて

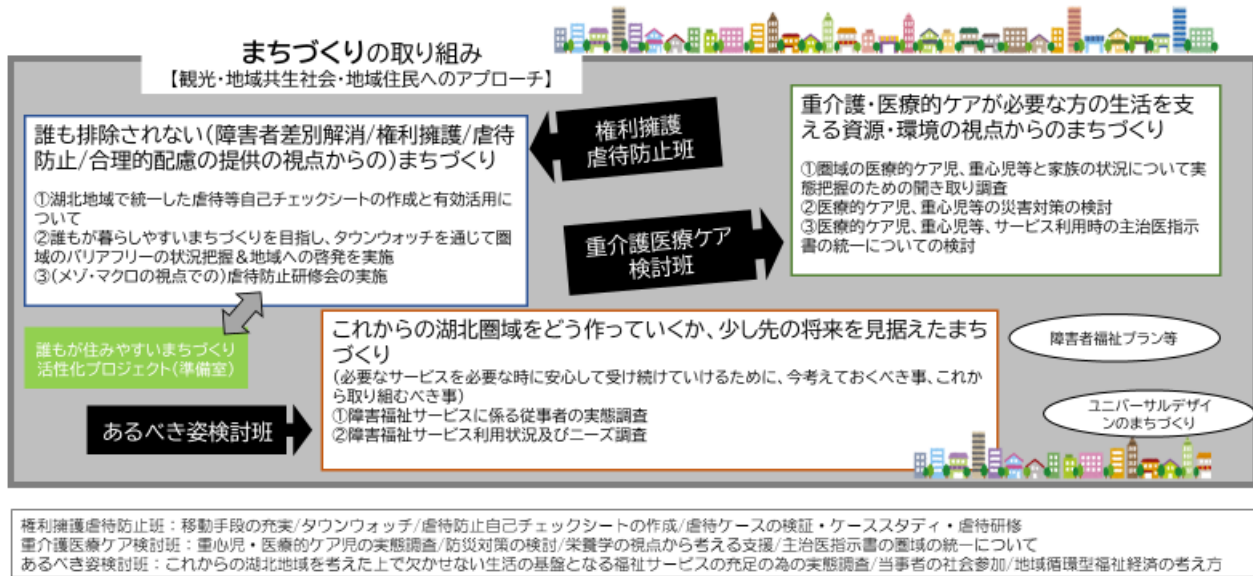
表3

2025年度【ライフステージ専門性部会】取り組みイメージ



学齢期班:子どもアドボカシーの視点【乳幼児期～学齢期の関係機関の主導役、サービス調整/家族支援(子育て支援、ペアレントメンター)/進路場面での合理的配慮】
 専門的人材班:セラピストG【PT・OT・ST等のセラピスト同士の連携、福祉現場での専門職視点の共有のための研修会企画・開催、事業所を越えた人材活用の検討】
 発達しょうがいG【支援者が頼りたい支援者の育成と事業所を越えた専門職の活用/行動しょうがいのある方の受け止め、環境整備や人的配置における加齢等の検討】
 成人高齢班:しょうがいのある方の高齢化における課題への取り組み

2025年度【社会資源環境部会】取り組みイメージ



II 令和7年度自立支援協議会事務局機能（事務局会議/運営委員会）

I 事務局会議

■ 構成メンバー

会長：松本正志（CIL だんない）

副会長：美濃部裕道（CIL だんない）

拠点コーディネーター：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン）、山口毅（湖北基幹相談支援センターふらっと）

しょうがい当事者代表：美濃部裕道（CIL だんない）

基幹相談支援センター：宮川和彦（湖北基幹相談支援センターふらっと）

行政（長浜市）：片山理絵/川瀬雄太（長浜市健康福祉部しょうがい福祉課）

行政（米原市）：宮元尚義/石田育子（米原市くらし支援部障がい福祉課）

事務局：喜田知之/岸田美紀（湖北基幹相談支援センターふらっと）

■ 活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月2日 13:30~15:15	長浜市地域福祉センター3A会議室	10
第2回	5月7日 13:30~15:00	長浜市地域福祉センター3A会議室	11
第3回	6月4日 13:30~15:00	長浜市地域福祉センター3A会議室	10
第4回	7月2日 10:00~11:00	長浜市地域福祉センター3A会議室	11
第5回	8月6日 13:30~15:00	長浜市地域福祉センター3A会議室	9
第6回	9月3日 13:30~15:00	長浜市地域福祉センター3A会議室	10
第7回	10月1日 13:30~15:10	長浜市地域福祉センター3A会議室	10

第8回	11月5日 13:30~15:00	長浜市地域福祉センター3A会議室	9
第9回	12月3日 13:30~15:20	長浜市地域福祉センター3A会議室	8
第10回	1月7日 13:30~15:20	長浜市地域福祉センター3A会議室	10
第11回	2月4日 13:30~15:20	長浜市地域福祉センター3A会議室	7
第12回	3月4日 13:30~14:50	長浜市地域福祉センター3A会議室	9

2 運営委員会

■構成メンバー

会長：松本正志（CIL だんない）

副会長：美濃部裕道（CIL だんない）

拠点コーディネーター（以下、拠点 Co）：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン）、山口毅（湖北基幹相談支援センターふらっと）

しょうがい当事者代表：美濃部裕道（CIL だんない）

生活の充実部会長：西山和秀（湖北タウンホーム）

ライフステージ専門性部会長：川寄誠一（湖北相談処すだち）

社会資源環境部会長：河井孝典（重症心身障害者通所施設えがお）

就労選択支援サービスプロジェクト座長：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン）

湖北健康福祉事務所：野中梓（長浜保健所地域保健福祉係）

行政（長浜市）：小寄多代（長浜市健康福祉部しょうがい福祉課）

行政（米原市）：石河輝男（米原市くらし支援部障がい福祉課）

米原市社会福祉協議会：田中雄一（米原市社会福祉協議会相談支援課）

長浜市社会福祉協議会：葛川豊（長浜市社会福祉協議会相談支援課）

基幹相談支援センター：宮川和彦（湖北基幹相談支援センターふらっと）

事務局：喜田知之/岸田美紀（湖北基幹相談支援センターふらっと）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月16日 13:30~15:20	長浜まちづくりセンター1C会議室	11
第2回	6月18日 13:30~15:20	長浜まちづくりセンター1C会議室	13
第3回	8月20日 13:30~15:20	長浜まちづくりセンター1C会議室	14
第4回	10月15日 13:30~15:20	長浜まちづくりセンター1C会議室	11
第5回	12月17日 13:30~15:15	長浜まちづくりセンター1C会議室	11
第6回	2月18日 13:30~15:15	長浜まちづくりセンター1C会議室	10

■今年度の事務局会議および運営委員会での主な協議内容等

1. 協議会の体制と運営

- ・新体制の構築と拠点 Co の参画: 令和7年度より、新たに拠点 Co 2 名が事務局会議および運営委員会のメンバーとして加わり、より現場と直結した課題解決に取り組む体制となりました
- ・事務局会議のペーパーレス化: 環境負荷低減のため、当日紙資料の配布を原則廃止し、事前にデータ

で資料を共有する運用を試験的に開始し、年度末にその有効性と課題について振り返りを行いました

- ・次期会長・副会長の選出: 現会長が3期6年の任期を終えるにあたり、次期会長（令和8・9年度）が決定するまでのプロセスを協議し、実際に運営委員会にて、会長選出の一連の流れに沿って、立候補受付・信任投票を行い、満場一致で次期会長が信任されました

2. 全体会議の開催と実践報告

- ・第1回全体会議(9月): 映画『杏(はる)かなる』の上映会と新規事業所の紹介を実施。ALS(筋萎縮性側索硬化症)をテーマとした映画を通じ、障害当事者への理解を深める機会としました
- ・第2回全体会議(3月): 地域での優れた実践を共有する「第1回湖北地域における実践報告会」をメイン企画として立案し、AI活用や地域のまちづくりに関する取組みなど8つの事例発表を柱に構成しました

3. 地域課題への対応とプロジェクト設定に向けての活動

- ・相談支援体制の再構築: 相談支援事業所の伸び悩みやのぞまないセルフプランの増加といった地域課題に対し、次年度、相談支援体制再構築プロジェクトを立ち上げ、意見交換会を通じて課題の可視化や今後の方向性について協議する場を設定しました
- ・湖北圏域社会資源マップの更新: 3年前に作成されたマップの情報を現場で使いやすいツールへの改良等を含めて検討・協議する場を設定しました
- ・日中サービス支援型共同生活援助(以下、GH)の評価: 定期評価(既存事業所)および事業計画評価(新規開設予定)を実施。災害対策や虐待防止、医療連携などの観点から事業所への助言や評価を行いました



↑運営委員会の様子

3 長浜市長および米原市長へ令和6年度活動報告書の提出

■目的

令和6年度自立支援協議会の取り組みを両市長に認知してもらうこと、今後も市と連携して課題解決に向けた取り組み等を協同して行っていくことを確認する機会とするため、両市長と面談を実施しました。令和6年度の協議会における重点取り組み内容等を中心に報告し、協議会の年間の活動報告書を手渡しました

■活動報告(重点取り組み内容)

地域生活塾プロジェクト提言書について

【令和6年度活動報告書P.16～18, 添付書類①参照】

1. 協議の場 地域生活塾プロジェクト会議
2. 参画事業所等
障害福祉サービス事業所(相談支援事業所、生活介護事業所等)、当事者団体、長浜市、米原市等
3. 取組背景
 - ①自立した地域生活に必要な配慮
近年、障害者権利条約に基づき、障害当事者の方が自ら望む暮らしが実現できるよう、支援の強化が図られてきている。湖北地域においても、住まいの選択肢の拡大および暮らし方の多様化が進んでいるものの、障害当事者の方が自分らしく生活を送るには多くの「工夫や支援」が必要である
 - ②湖北圏域における取組み
障害当事者の方が自分らしい暮らし方の具体的なイメージを膨らませ、仲間と繋がり、気付きや自信を得て、学ぶ環境が求められ、自立支援協議会で「湖北地域生活塾」が誕生し、今日まで手探りの状態で運営されてきた
 - ③持続可能な仕組みづくりの必要性
近年は働き方の変化やリスクマネジメントなど社会全体の構造も大きく変わり、「湖北地域生活塾」でも、持続可能な仕組みづくりに向けた課題に直面している
4. 「湖北地域生活塾」の運用における課題
 - 課題① 継続的な運営の仕組みや財源
運営するための費用やスタッフの人件費、交通費や食事代等、有志扱いであったため、検討が必要
 - 課題② 人材確保について
湖北圏域の深刻な人材不足の現状から、事業所からボランティアとして人材を継続的に派遣することが厳しい状況にある
5. 取組み概要および成果
 - ①地域生活塾の卒業生から塾を通して得た効果等評価情報を収集
➡現状は、障害当事者の方が自分自身の暮らし方や将来の生活への思いをめぐらせる体験的な機会が不足している。今回、その体験的な機会が必要である根拠を明確化し、湖北圏域の必要な資源として、位置づけた
 - ②持続可能な運営体制構築のため、費用概算を算出
 - ③協議内容や根拠資料等を提言書として取りまとめた➡別紙 提言書参照
6. 今後について
 - ・令和6年度の取組み成果(湖北地域生活塾の必要性)をもとに、自立支援協議会において障害当事者が自分らしい暮らし方の具体的なイメージがもてる体験的な場のモデル事業等について検討
 - ・市担当課等へ引き続き自立支援協議会への参画および施策・事業化へ向けて検討、継続的な連携を行う

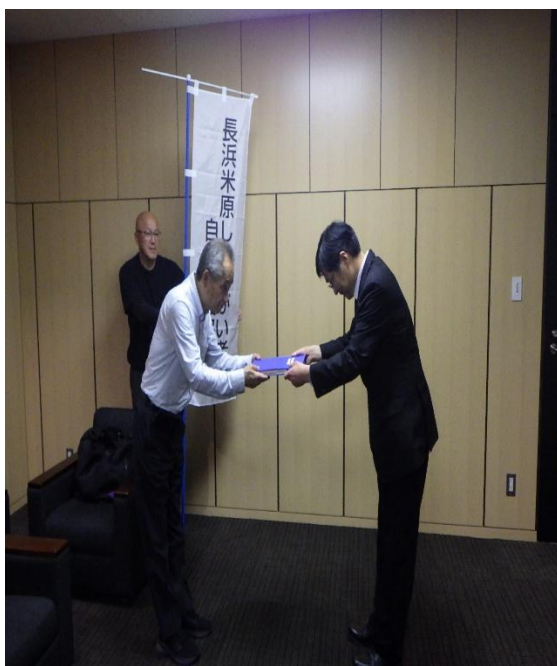
■長浜市長へ報告

日時:令和7年7月1日(火)10:00~10:30 場所:長浜市役所 4階 市長応接室

参加者:協議会 会長:松本正志(CIL だんない) 副会長:美濃部裕道(CIL だんない)

事務局メンバー:鍵弥寿彦(相談支援事業所ピットイン/拠点Co)、宮川和彦(湖北基幹相談支援センターふらっと)、ライフステージ専門性部会長:川寄誠一(湖北相談処すだち)、地域生活塾プロジェクト座長:野寺(湖

北相談処すだち)、事務局:喜田知之/岸田美紀



↑ 長浜市長へ協議会の取組みを報告している様子

■ 米原市長へ報告

日時: 令和7年7月1日(火) 15:30~16:00

場所: 米原市役所 4階 市長応接室

参加者: 協議会 会長: 松本正志 (CIL だんない)、副会長: 美濃部裕道 (CIL だんない)、

事務局メンバー: 鍵弥寿彦 (相談支援事業所ピットイン/拠点 Co)、宮川和彦 (湖北基幹相談支援センターふらっと)、ライフステージ専門性部会長: 川崎誠一 (湖北相談処すだち)、地域生活塾プロジェクト座長: 野寺 (湖北相

談処すだち)、事務局:喜田知之/岸田美紀



↑米原市長に協議会の取組みを報告している様子

4. かわら版の発行

協議会の活動を積極的に発信するため、機関紙かわら版を年2回発行し、構成団体等へ送付しました

令和6年度活動報告書・提言書を市長へ手渡しました

昨年同様、活動してきた内容やその成果をまとめた活動報告書を市長へ提出しました。特に重点取り組みとして、地域生活塾プロジェクト会議で取りまとめた提言書を中心に説明し、新たな障害福祉施設等について考えていただく機会となりました。今後も市と連携しながら取組んでいきます。

長浜市長との面談

日時：令和7年7月1日 13:30～
 メンバー：会長、副会長、事務局メンバー、地域生活塾プロジェクト会議、ライフステージ専門性部会長、事務局



浅見市長に提言書を提出

米原市長との面談

日時：令和7年7月1日 15:30～
 メンバー：会長、副会長、事務局メンバー、地域生活塾プロジェクト会議、ライフステージ専門性部会長、事務局



角田市長に提言書を提出

令和7年度 専門部会・プロジェクト会議

生活の充実部会

誰かなくらし

ステップアップ推進班

福祉的就労から一般就労など「働くこと」を中心にステップアップを推進するための課題について検討

当事者サポーター推進班

しょうがい当事者を支えるサポーター(ピアカン)/当事者性を活かした活動の活躍の場を検討

地域移行推進班

拠点コーディネーターを中心としてしょうがいのある方の地域移行が推進できるような仕組みや体制について検討

ライフステージ専門性部会

人・制度づくり

学齢期班

子どもアドボカシーの視点(乳幼児期～学齢期の関係機関の主導後、サービス調整/家族支援(子育て支援、ヘルプメントメンター)/進路準備での合理的配慮]

セラピスト(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)G

セラピスト同士の連携、現場での専門職視点共有のための研修企画・開催、事業所を越えた人材活用を検討

専門人材班

支援者が頼りたい支援者の育成と事業所を越えた専門職の活用/行動しょうがいのある方の受け止め、環境整備や人的配慮における加算等の検討

成人高齢班

しょうがいのある方の高齢化における課題への取組み

社会資源環境部会

まちづくり

権利擁護虐待防止班

移動手段の充実/タウンウォッチ/虐待防止自己チェックシートの作成/虐待ケースの検証・ケースタビ・虐待研修企画・開催

重介護医療ケア検討班

重心児・医療的ケアの実態調査/防災対策の検討/栄養学の視点から考える支援/主治医指示書の領域の統一について

あるべき学校検討班

これからの湖北地域を考えた上で欠かせない福祉サービスの充実のための実態調査/当事者の社会参加/地域連携型福祉経済の考え方

プロジェクト会議

放労選択支援サービスプロジェクト

「誰もが住みよいまちづくり」活性化プロジェクト(準備室)

就労選択支援サービスに係る 湖南圏域の取組み報告 & 意見交換会を開催しました

・日時：令和7年4月10日
 ・場所：長浜まちづくりセンター
 ・テーマ：就労選択支援事業について
 ・講師：社会福祉法人あすこみっと 河原 明和 氏
 働き・暮らし応援センター「りらく」 相馬 佐保 氏



大切にすべき視点や共通認識を深める機会となりました

重介護医療ケア検討班 現地視察研修

他圏域の先進的な取組みや専門的な知識を学ぶ現地視察研修を実施しました
 ・日程：令和7年6月19～20日
 ・参加者：14名

視察先
 社会福祉法人小羊学園 つばさ静岡 (静岡県静岡市東区)
 講師/つばさ静岡医療部長 淺野一恵医師
 施設見学・試食

静岡市医療的ケア児等支援協議会との意見交換・交流会
 静岡市医療的ケア児等支援協議会から現状や取組みについて説明いただき、意見交換を行いました。



「誰もが住みよいまちづくり」活性化プロジェクト(準備室)で令和7年度曳山まつり出店

目的：商品の販売を通して、しょうがいのある方が市民の方との交流や社会参加の機会とし、福祉のまちづくりの推進を図る

開催日時：令和7年4月15日
 開催場所：長浜八幡宮境内一角
 参加事業所：ひかり園、サンサン、Ohana、CILだんない、長浜市、事務局
 出店内容：事業所等で製作・製造された商品の販売




当日は雨が降りあいにくの天気でしたが、市民の方と交流し啓発するよい機会となりました

独立行政法人国立病院機構静岡てんかん/神経医療センター (静岡市東区)

てんかん(病状、症状、治療、看護や療育)について学ぶ

参加者アンケートより(一部抜粋)
 視察先の受け入れが丁寧で気持ち良かった。知識の学習もでき、よい前向きだった。今後湖北と連携がとれていければありがたいと思う。とても充実した視察研修でした。受け入れ先の施設の皆様、講師の皆様、ありがとうございました。

自立支援協議会についての予定およびお知らせはホームページに掲載しております。ぜひホームページをご確認ください。
<https://www.kohoku-kikan.jp/jiritu>



ながはま あいさつ しょうがい者
自立支援協議会

かわら版

vol.8

長浜米原しょうがい者自立支援協議会

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 事務局：湖北基幹相談支援センターふらっと
長浜市湖北町遠水1860(湖北福祉ステーション内) 電話：0749-78-2144 FAX：0749-78-2212
kikanchosei@nagahama-shakyo.or.jp ホームページ <https://www.kohoku-kikan.jp/>



今年度も自立支援協議会の専門部会、活動班、プロジェクト会議で様々な取り組みを行いました。その一部を紹介いたします。

就労選択支援サービスプロジェクト会議の取り組みが 国マニュアルに掲載されました

令和7年10月から開始の「就労選択支援サービス」において、圏域での適切な運用に向け、プロジェクト会議では、関係機関の役割や機能についての整理や圏域共通のアセスメントツールの作成等を行っています。
厚生労働省で令和7年3月末に作成された「就労選択支援実施マニュアル」では、先行事例として、湖北圏域の取り組みが掲載されました。



湖北圏域の取り組みが紹介

令和7年度第1回全体会を開催

- ・日時：令和7年9月19日(金) 13:00～16:00
- ・場所：長浜まちづくりセンター多目的ホール
- ・内容：会長あいさつ、新規事業所紹介、ドキュメンタリー映画「香かなる」上映会



会長からあいさつをいただきました



新規事業所から事業所の特色などを紹介いただきました



会場で映画「香かなる」を上映しました

BCP研修会を2回シリーズで開催

協議会事務局、湖北基幹相談支援センターふらっととの共同開催

第1回：BCP研修

- ～見直しタイミングやポイントについて学ぶ～
- ・日時：令和7年7月7日(月) 14:00～16:00
- ・場所：長浜市民交流センター
- ・講師：びわこ学院大学教授 鳥野 猛氏



第1回の研修会の様子

第2回：BCP研修

- ～皆さんの事業所の地理的リスクと、どこと連携すればいいか～
- ・日時：令和7年10月2日(木) 14:00～16:00
- ・場所：神楽まちづくりセンター
- ・講師：びわこ学院大学教授 鳥野 猛氏



第2回の研修会 関係者で意見交換をしている様子



講師の鳥野先生です。たくさんの学びをありがとうございました

当日のアンケートでは、BCPについて具体的に作成のヒントを教えてくださいとお願いしたところ、防災について、より深く考える機会となった感想をいただきました

虐待防止研修の開催

協議会(地域移行推進班・当事者サポーター推進班・権利擁護虐待防止班)、湖北基幹相談支援センターふらっととの共同開催

- ・テーマ：虐待防止研修
- ～やさしさの中に進むバタナリズム～
- ・日時：令和7年12月10日(水) 13:30～15:30
- ・場所：長浜まちづくりセンター多目的ホール
- ・講師：椎名 保友氏 (NPO 法人日常生活支援ネットワーク 理事)



権利擁護虐待防止班 縦糸産長より開会のあいさつをいただきました



参加者同士で意見交換している様子

アンケートでは、いかに支援者側が当事者との対等性という視点をきちんと持つことができていくかが重要だと学ばれた等、たくさんの感想をいただきました



「誰もが住みよいまちづくり」活性化イベント(準備室)で 様々なイベントに参加。 そのうちの一つを抜粋して 紹介します

- 長浜ライオンズクラブ65周年イベント「彩りの庭」
- ・日時：令和7年11月15日(土) 10:30～15:30
- ・場所：長浜まちなか(曳山博物館広場一帯)



開会式にて美濃副副会長が祝辞を述べられました



各事業所の商品や製作物を販売させていただきました



天候にも恵まれ、たくさんの来場者の方に障害福祉に関する周知・啓発ができました。ありがとうございました



電動車いす体験やパンフレットの配布等啓発活動もしていました

協議会から湖北圏域の地域アドボケーター(滋賀県地域相談支援員)に5名を推薦

「地域アドボケーター(滋賀県地域相談支援員)」は、自身で相談することが難しい障害のある方に寄り添い、相談内容を代弁することなどにより、障害者の権利を擁護し、障害者差別解消相談員につなぐ役割を担っています。(詳しくは基幹HPをご覧ください)

ライフステージ専門性部会 現地視察研修

発達障害および知的障害のある方への地域移行に向けた実践的な工夫や取り組み、支援者への人材育成を目的として視察研修を実施

- ・日時：令和7年12月2日(水) 13:00～15:00
- ・視察先：天津市多機能型地域生活支援拠点 (G-square)・ステップ広場カール



自立支援協議会についての予定およびお知らせはホームページに掲載しております。ぜひホームページをご確認ください

<https://www.kohoku-kikan.jp/jiritsu>



Ⅲ 令和7年度プロジェクト会議活動報告

(別添書類②令和7年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会部会報告書参照)

Ⅰ 就労選択支援サービスプロジェクト会議

■活動の目的

本プロジェクト会議は、令和7年10月から運用が開始された新たな障害福祉サービス「就労選択支援サービス」の圏域内での適切な運用に向けての枠組みを構築するため、令和6年度からプロジェクトとして協議・検討を行いました。大切にしたことは、第一に当事者の方に有効に活用されるものを作っていくことであると同時に、様々な視点から検討し、支援者が無理なく運用できるものということです。

今回のプロジェクト会議を通じ、福祉と就労、圏域を越えて連携・協力が気軽にできる、そのきっかけとなることの期待も込めています。

■参画事業所等

座長：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/拠点 Co）、副座長：阿藤誠介（はたらき・くらし応援センターこほく）
参画：（はたらき・くらし応援センターこほく/ワークスさぼてん/スマイルカレッジ/あっぷでーと/就労ネットワーク滋賀/地域若者サポートステーション/長浜養護学校/ハローワーク長浜/障害者支援センターそら/ 相談支援事業所ピットイン/障がい者相談支援センターほたる/長浜市議会/長浜市しょうがい福祉課/米原市障がい福祉課/湖北基幹相談支援センターふらっと）
オブザーバー：滋賀県障害福祉課

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月10日 15:15~17:20	長浜まちづくりセンター1C 会議室	29
第2回	5月8日 15:15~16:50	長浜まちづくりセンター1C 会議室	17
きいろチーム	6月12日 13:00~15:15	長浜まちづくりセンター2AB 会議室	10
第3回	6月12日 15:15~16:50	長浜まちづくりセンター2AB 会議室	20
第4回	7月10日 15:15~16:50	長浜まちづくりセンター1C 会議室	18
きいろチーム	7月24日 11:00~12:00	長浜まちづくりセンター2AB 会議室	10
第5回	8月7日 15:00~16:35	長浜まちづくりセンター1C 会議室	16
第6回	9月7日 15:15~16:55	長浜まちづくりセンター2AB 会議室	19
第7回	10月9日 15:15~16:50	長浜まちづくりセンター2AB 会議室	21
第8回	11月13日 15:15~16:50	長浜まちづくりセンター1C 会議室	16
第9回	12月11日 15:15~16:50	長浜まちづくりセンター1C 会議室	14
第10回	1月8日 15:15~16:50	長浜市役所多目的ルーム1	17
第11回	2月12日 15:15~17:10	長浜まちづくりセンター1C 会議室	14
第12回	3月12日 15:15~16:45	長浜まちづくりセンター1C 会議室	14

■今年度の取組み

今年度は、主に「きいろグループ（評価ツール検討）」と「みどりグループ（運用フロー検討）」の2班体制で具体的な検討を進めました

- ・ 共通アセスメントの検討（きいろグループ）：手先の巧緻性や指示理解を測るため共通作業課題（ビス・ボルト・ワッシャーの組立て）を選定し、評価基準や教示方法の標準化を行いました
- ・ 運用ルールと手引きの作成（みどりグループ）：相談受付からサービス担当者会議に至る標準的なプロセスを「手引き」としてまとめました。特に「やむを得ないセルフプラン」の方に対し、行政や拠点コーディネーターの客観性を担保しサポート体制の構築に注力しました
- ・ 就労選択支援サービスの指定等にかかる評価会議の実施：圏域内の3事業所を対象とした評価会議を開催し事業所の運営方針や活動内容を評価するため会議の仕組みを構築しました
- ・ モデル事業や研修会への協力：県が実施する厚生労働省のモデル事業の協力や就労選択支援の本質を理解するための研修会での登壇等、協力を行います

■現在の到達点や成果

- ・ 「就労選択支援サービス手引き」の作成：制度概要、湖北圏域独自の考え方、各種様式（インタビューシート、協同報告書等）を含む手引きを作成しました
- ・ 共通アセスメントキットの作成：共通アセスメントキットを用いたトライアル（試行）を実施し、基準タイムの測定や教示内容の共通化を図りました
- ・ 多機関連携の強化：行政、ハローワーク、はたらき暮らし応援センター、養護学校等の関係機関と定期的な協議を重ねたことで、新制度に対する共通理解と顔の見える関係性が構築されました
- ・ 地域の評価体制の確立：協議会における評価会議の実施要領（開催時期や構成メンバー等）を整理し、新規事業所の参入に対応できる体制の構築を図りました

■今後の方向性や次年度予定

- ・ フォローアップ体制の具体化：就労後のステップアップや、福祉的就労後の意向を地域で継続的に支える仕組みを強化していきます
- ・ 就労選択支援サービスの本格運用：手引きを最終化し、圏域での本格運用を図ります
- ・ 養護学校との連携運用：学校在籍中の生徒の利用について、実習前後の振り返り会議などに外部機関が関わる具体的な運用を実施・検証していきます
- ・ 地域課題の継続議論：やむを得ないセルフプランの方の支援について協議会の場で検討します



↑ 圏域で制度の理解を深めるための研修会開催の様子



↑ 就労選択支援サービスの指定に係る評価会議（プレ会議）の様子

2 「誰もが住みやすいまちづくり」活性化プロジェクト(仮称)準備室

■活動の目的

本準備室は、地域に住んでいるしょうがい当事者の方の社会参加や市民との交流の機会を増やすこと、およびしょうがい福祉に関する啓発活動を目的としています。

■開催方法

- ・イベント毎に協議会構成団体に周知し、参加事業所等を募ってイベントに参画しました。まちなかマルシェ「いろどりの庭」においては、イベント主催団体と協力して、企画・運営を行いました

■参画事業所等

世話役: 鍵弥寿彦(相談支援事業所ピットイン/拠点 Co)、

参画: CILだんない/Ohana/サンサン/フォー・ユー/ワークスさぼてん/ひかり園/ほおずき作業所/つつじ作業所/権利擁護虐待防止班

■活動実績

イベント	日時	場所	参加数(事業所)
長浜曳山祭り	4月15日 8:00~16:30	長浜八幡宮境内一角	4
わた SHIGA 輝く国スポ	10月4日 9:00~16:00	長浜城テニスガーデン	3、権利擁護虐待防止班
ながはま健康フェスティバル	11月2日 10:00~16:00	長浜バイオ大学	3
まちなかマルシェ「いろどりの庭」	11月15日 10:30~15:30	曳山博物館広場一帯	8
環境にやさしい日フェア	3月7日 10:00~14:00	びわ文化学習センター(リュートプラザ)	3



↑長浜曳山祭り出店の様子



↑国スポ出店の様子



↑健康フェスティバル出店の様子



↑環境にやさしい日フェア出店の様子

65 NAGAHAMA LIONS CLUB CN ANNIVERSARY
長浜ライオンズクラブ CN65周年記念事業

2025年 11/15(土)
会場/長浜まちなか(曳山博物館広場一帯)
時間/10:30~15:30 雨天決行(雨天一部中止イベントあり)

体験しよう
●車椅子体験
●美濃のしろうがいを持った仲間たちが繰り広げる音楽・ダンス・短編演劇ステージを!

ステージ
●音楽・ダンス
●施設(作業所)さんのオリジナルグッズや、手づくりのクッキー、焼き菓子など販売。

施設ブース
●販売 & 啓発

しょうがいのある仲間たち、施設、地域の人々、みんなが主役!

多様な仲間と地域をつなぐ。
まちなかマルシェ
いろいろの庭

【特別ゲスト】よしもと哲人アーティスト たいぞう

～司会者～ 増田 晶子

●【コロナ禍】たいぞう & Abeilleアーティスト
～このコロナ禍の境界～
●たいぞうと、嬉しいのあるアーティストのコロナ禍。

●【コロナ禍】たいぞう & Abeilleアーティスト
～このコロナ禍の境界～
●たいぞうと、嬉しいのあるアーティストのコロナ禍。

【主催】Lions Clubs International
長浜ライオンズクラブ
【協力】長浜米原しょうがい者自立支援協議会



↑開会式で美濃部副会長が挨拶されている様子



↑まちなかマルシェ「いろいろの庭」出店の様子

イベント協力団体としてチラシに掲載

IV 令和7年度専門部会活動報告

I 生活の充実部会

■活動の目的

本部会は、部会のテーマ【豊かな暮らし】を実現するために、「ステップアップ推進班」「当事者サポーター推進班」「地域移行推進班」の3つの作業班それぞれの切り口から協議をおこない、作業班の活動状況の共有と協議事項の整理することを目的としています。

■参画事業所

- 部会長：西山和秀 (湖北タウンホーム)
- 世話役：鍵弥寿彦 (相談支援事業所ピットイン/拠点 Co)、山口毅 (湖北基幹相談支援センターふらっと/拠点 Co)
- 参画：(ステップアップ推進班/当事者サポーター推進班/地域移行推進班の座長、副座長等)

■活動実績

回	日時	場所	参加(人)
第1回	5月12日 10:00~11:30	長浜まちづくりセンター1B会議室	6

第2回	11月26日 10:10~11:15	長浜まちづくりセンター2C会議室	8
第3回	2月20日 13:30~14:45	長浜まちづくりセンター1C会議室	6

※コア会議：コアメンバー（部会長/座長）で会議内容等について打合せ

■活動内容

各作業班座長より報告後、質疑応答を通じて、活動内容についての理解を深め、部としての方向性等を確認しました



↑生活の充実部会コア会議の様子

(1) ステップアップ推進班

■活動の目的

本班は、障害のある方が「働きたい場所で働く」ことを応援することを目的としています。具体的には、就労継続支援 B 型から A 型、一般就労への「ステップアップ」を推進する役割を担っています。ステップアップが停滞している現状に対し、当事者・事業所・環境などの要因を検討し、事例共有を通じて解決策を探ることを重視しています。また、当事者に原因を求めるのではなく、環境調整を重視する「社会モデル」の視点を活動の基盤としています

■参画事業所等

座長：佐久間勇樹（スマイルカレッジ）

世話役：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/拠点 Co）

参画：（ワークスさぼてん/フォーユー/障がい者相談支援センターほたる/ピットイン/あっぷでーと/スマイルカレッジ/ダブル/長浜みなみ共同作業所/はたらき・くらし応援センターこほく/障害者支援センターそら/つどい/ひかり園・輝湖里/ワークスさかた/リアファル/友愛ハウス/Link/長浜ワークスタジオカナエル/湖北基幹相談支援センターふらっと/ハローワーク長浜/長浜市しょう

がい福祉課)

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月8日 13:15~14:40	長浜まちづくりセンター1C会議室	20
第2回	7月10日 13:15~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	18
第3回	9月11日 13:15~14:50	長浜まちづくりセンター2AB会議室	18
第4回	11月13日 13:15~14:40	長浜まちづくりセンター1C会議室	22
第5回	1月8日 13:15~14:50	長浜市役所多目的ルーム1	15
第6回	3月12日 13:15~14:50	長浜まちづくりセンター1C会議室	18

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■今年度の取組み

- ・事例検討(ピカジップ法※の活用): 働く環境や支援のあり方を多角的に検討しました
- ・企業見学の参加: 10月24日企業見学に参加しました。支援者だけでなく当事者も参加し、実際の職場環境を肌で感じる機会となりました
- ・関係機関との連携強化: ハローワークの担当者から湖北圏域の現状について説明を受け、情報共有や連携の重要性を再確認しました
- ・新制度への対応と勉強会: 2025年10月から開始される「就労選択支援サービス」に向け、制度の理解を深めるための意見交換や、「アセスメント」についての勉強会を実施しました
- ・事業所間のノウハウ共有: 新規開設された事業所の紹介や、各事業所のステップアップ支援の取り組みについて情報交換を行いました

※ピカジップ法とは…事例提供者の提出した簡単な事例資料をもとに、ファシリテーターと参加者が協力して参加者の力を最大限に引き出し、その経験と知恵から事例提供者に役立つ新しい取組みの方向性や具体的なヒントを見出していくプロセスを学ぶグループ体験のこと

(村山正治・中田行重「新しい事例検討法 PCAGIP 入門 パーソン・センタード・アプローチの視点から」抜粋)

■現在の到達点や成果

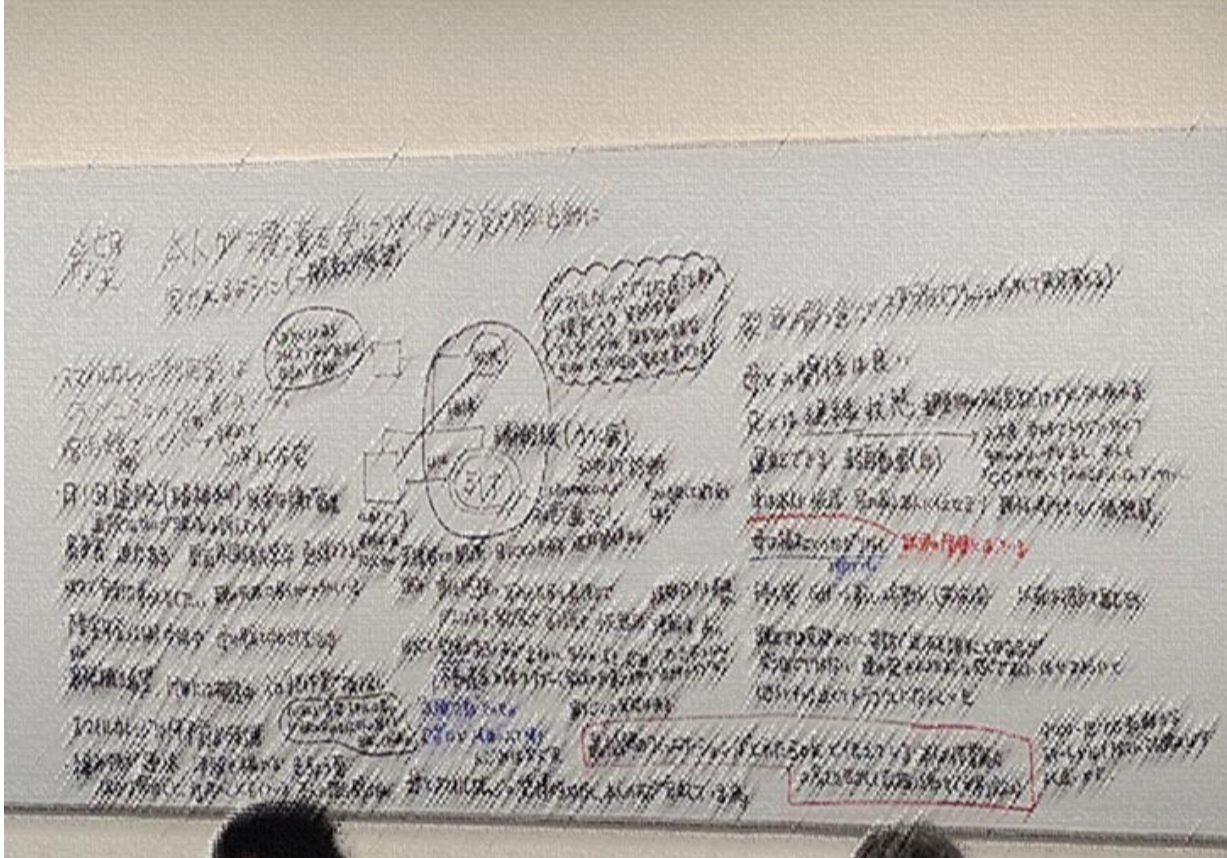
- ・ステップアップ事例の共有: B型事業所から一般就労へ移行し、フルタイム勤務を継続している事例が報告され、多職種連携と適切なアセスメントが成功の鍵であることを共有しました
- ・当事者の意識変容: 企業見学を通じて、「自分にもできる仕事がある」と就労へのモチベーション向上や、自身の得意・不得意を客観的に判断する等の効果があることを再認識しました
- ・アセスメントスキルの向上: 単なる情報収集ではなく、当事者の思い(主観的事実)と客観的事実の両面を捉えるアセスメントの本質について共通認識を持ち、「根拠に基づいた支援」の重要性を共有しました
- ・生活基盤の重要性: 事例検討を通じ、安定した就職活動には生活基盤や精神的な安定が不可欠であり、家族関係や経済面等、総合的な視点での支援が必要だと学びました

■今後の方向性や次年度の予定

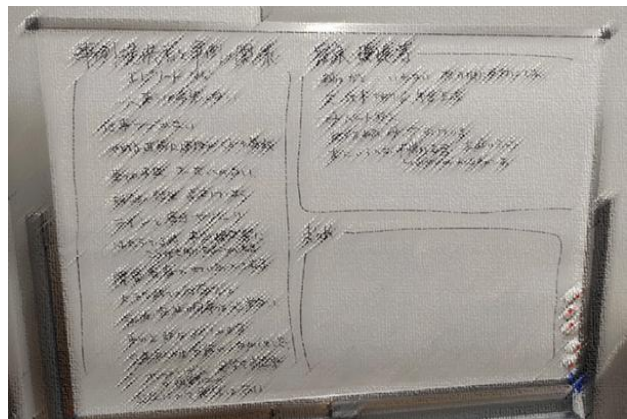
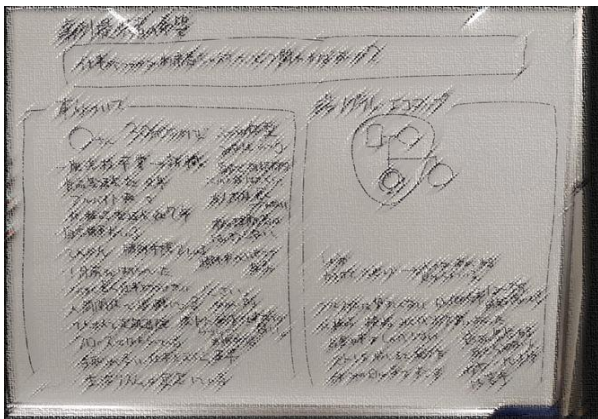
- ・地域全体のアセスメント能力向上: 就労選択支援サービスの本格始動に伴い、本推進班が中心となって地域全

体の支援の質を高める役割を継続します

- ・「就労選択支援サービス」における圏域の課題や対応について、今年度で終結する就労選択支援サービスプロジェクトから引き継ぎ、多機関で協働する会議の開催や圏域の運用の仕組みをよりよいものにしていくための中心的役割を担います



↑ ↓ピカジップ法を用いて事例検討している様子(写真はぼかしています)



(2) 当事者サポーター推進班

■活動の目的

本班は、障害当事者によるピアカウンセリング(以下、ピアカン※)の学習と推進を活動の軸としています。当事者同士の対等な関係性に基づき、自己肯定感の向上や意欲を引き出す(エンパワメント)、および自己決定を支援することを目的としています。また、支援者が無意識に行うパターンリズム(保護主義)に気づき、当事者

の主体性を尊重する「意思決定支援」のあり方を検討することも重要な目的の一つです

※ピアカンとは…ピアカウンセリングを省略したもの。ピアカウンセリングとは、1970年代初めアメリカで始まった自立生活運動の中でスタートした。しょうがいをもつ当事者自身が自己決定権や自己選択権を育て、支え合って、隔離することなく、平等に社会参加していくことを目指す。ピア・カウンセリングとは、自立生活運動における仲間（ピア）への基本姿勢のようなもので、お互いに平等な立場で話を聞き合い、きめ細かなサポートによって、地域での自立生活を実現する手助けをすること（全国自立生活センター協議会ホームページより抜粋）

■参画事業所等

座長：饗庭大聖（米原市障がい福祉課） 副座長：坂下聡子（長浜市しょうがい福祉課）

世話役：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/拠点 Co）、山口毅（湖北基幹相談支援センターふらっと/拠点 Co）

参画：（CILだんない/障がい者相談支援センターはたる/相談支援事業所ピットイン/ふくらの森/ひだまり/湖北基幹相談支援センターふらっと/米原市障がい福祉課/長浜市しょうがい福祉課）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月23日 13:30~14:50	長浜まちづくりセンター1C会議室	7
第2回	6月25日 13:30~14:45	長浜まちづくりセンター1C会議室	11
第3回	8月27日 14:00~15:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	12
第4回	10月22日 13:30~14:40	長浜まちづくりセンター2AB会議室	12
第5回	2月25日 13:30~14:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	10

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■今年度の取組み

- ・ピアカウンセリングの定義と理解: JIL(自立生活センター)が提唱するスタイルを中心に、精神的サポートや自立のための情報提供、対等な関係性、傾聴、否定・批判をしないといったピアカンの基本姿勢について学習を深めました
- ・滋賀県ピアサポーター養成研修に関する学習: 令和2年度から制度化された県「ピアサポーター養成研修」の経緯や障害福祉サービス報酬(ピアサポート体制加算)との関連について学びました。また、実際に講師を務めた委員から研修の実施報告についても共有しました
- ・多班合同研修の企画: 地域移行推進班、権利擁護虐待防止班と合同で、支援現場での過剰な手助けが当事者の主体性を阻害する課題を考える「パターンリズム研修」を企画しました
- ・地域との連携: 当事者主体の自治会活動を行う事業所と連携に向けた協議を行いました

■現在の到達点や成果

- ・概念の整理と共通認識の形成: 「雇用を前提とし、職業倫理や役割葛藤も伴うピアサポート」と、「雇用を前提とせず、対等な関係での深い共感に重きを置くピアカン」の違いを本班として整理し、班としての理解を深めることができました
- ・支援のあり方への気づき: ピアカンの視点を学ぶことで、「支援者が決めるのではなく、当事者自らが決める過

程に意味がある」という支援者側の姿勢を見直す機会となりました

- ・新しい参加形式の可能性: 分身ロボット「OriHime (おりひめ)」を活用することで、遠隔からでも円滑にコミュニケーションが図れることを学び、重度障害のある方の社会参加の機会拡大の可能性について共有しました

■今後の方向性や次年度の予定

- ・実践的な見学と活動内容の検討: 今後は事業所を見学し、当事者と職員の関係性を肌で感じた上で、ピアカン要素を取り入れた具体的な活動内容について検討します
- ・ピアサポーターが活躍できる仕組みづくり: 県内の報酬加算算定実績がゼロである現状を踏まえ、資格取得者が孤立せず、実際に活躍できる場の創出等、引き続き検討していきます
- ・当事者の周知・啓発: 当事者のピアカンの意義に対する理解を広げるため、実際に活動している当事者の話を聞く機会を設けるとともに、支援者側の理解促進にも継続して取り組みます

今年度は、今後班活動していくにあたっての基盤となる、取組みの定義や既存の制度について班の中で共有する必要性が高まり、学習会の開催や講演いただく機会を多くもちました。

ピアカウンセリングとは

- ・ピアカウンセリングとは
 - 「ピア」=仲間、同等の人達という意味
 - ⇒障害者自身がカウンセラーとなって、障害者に対して行うもの
 - 1970年代米国で、地域社会において自立生活をする障害者の中で広まった。
 - 日本のピア・カウンセリングは、再評価カウンセリングの手法を取り入れている
 - ⇒カウンセラーとクライアントが、時間を対等に分けて、互いに役割を交換し合うところに大きな特徴
- ・ピア・カウンセリングとは幅広い内容を指す言葉
 - 精神的な相談から自立生活への学習活動
 - 住宅探し、社会的資源の活用の方
 - 様々な権利擁護や適切な雇用の判定
 - ⇒当事者だからこそ分かる体験、情報を伝えていく活動のすべてをさしている。
- ・お互いに対等な立場で話しの聞き合いを通して、きめ細かなサポートを行うことで、地域の中で自立生活を実現する手助けを行います。

4

ピアカウンセリングの3つの目的

- ①自己信頼の回復のために
 - ・自分が何を望み、何を必要としているのか?
 - ・それを獲得するために、何が妨げになっているか、充分な気持ちを表現
 - ・それが充分になされたあとで、再評価を行う
 - ・目標の修正は必要か、あるいは他の可能性が探求できるかなど
- ②人間関係の再構築のために
 - ・自己イメージの一新
 - ・関係性の再考と再評価
 - ・積極的なサポート関係をカウンセラーとの間で作り上げ
 - ・それを手始めとしてさまざまな人との関係性を作っていく
- ③社会の変革のために
 - ・障害をもつ私達自身が地域で生きていくことで、周りの意識、社会を変えていく
 - ・人は支え合って生きていくことに意味があることを実証していく

8

↑班員の CIL だんない美濃部氏より「ピアカウンセリング」について講演いただきました(資料抜粋)

ピアサポーターについて

令和7年8月27日(水)
滋賀県健康医療福祉部障害福祉課
精神保健・障害認定係

ピアサポーター養成研修制度化までの経緯

- <平成28年度～平成30年度>
「障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究」
(厚生労働科学研究)
 - ピアサポーターを対象として研修プログラムとテキストの作成
 - ピアサポートの普及と質の向上(福祉サービス全体の質の向上含む)
- <令和元年～令和2年>
「障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に係る講師を担える人材の養成及び普及のための研究」
- <令和2年度>
国の地域生活支援事業(任意事業)として「障害者ピアサポーター養成研修」が位置付く
- 令和2年3月6日障発0306第12号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知
「障害者ピアサポート研修事業の実施について」

↑県障害福祉課担当者を講師に「県ピアサポーター養成研修」の学習会を実施しました(資料抜粋)

(3) 地域移行推進班

■活動の目的

本班は、当事者が望む「その人らしい生活（住まいや暮らし方）」を自らの意思で選択し、実現することを目的としています。支援者は「できる／できない」だけでなく、「どうすればできるか」という視点に立ち、当事者の権利を尊重しながら体制を整えることが重要です。また、圏域における「地域移行」の共通認識を形成し、議論の方向性を合わせることも目的の一つです

■参画事業所等

座長：山口毅（湖北基幹相談支援センターふらっと/拠点 Co）

参画：（CIL だんない/相談支援事業所ピットイン/障害者支援センターそら/湖北タウンホーム/湖北健康福祉事務所/あそしあ/湖北まこも/ソーシャルインクルー長浜大寺町/ソーシャルインクルー長浜高月/長浜市しょうがい福祉課/米原市障がい福祉課/湖北基幹相談支援センターふらっと）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	6月17日 13:30~15:10	南郷里まちづくりセンター	11
第2回	8月19日 13:30~15:00	南郷里まちづくりセンター	14
第3回	10月21日 13:30~15:00	南郷里まちづくりセンター	12
第4回	2月17日 13:30~14:45	南郷里まちづくりセンター	10

■今年度の取組み

- ・過去の活動の振り返り：昨年度は入所施設やグループホーム（以下、GH）を見学し、生活実態の学習や課題の議論を行いました。その中で、入所施設から地域へ移行する際の金銭的課題（年金のみでは生活が困難な現状）が浮き彫りとなりました
- ・金銭的施策に関する提言書の作成：地域移行の大きな障壁である金銭的問題を解決するため、自治体独自の家賃補助や初期費用（敷金・礼金等）の助成について協議・検討しました
- ・地域生活支援拠点等との連携：今年度配置された「拠点コーディネーター」を中心に、個別のケース支援を通じて不足している社会資源の創出やチームで地域移行を推進する体制づくりについて検討しました
- ・意思決定支援と研修の実施：支援者がリスク回避のために施設生活を勧めがちな現状の「パートナーリズム研修」を通じ、当事者の意思決定を尊重する支援のあり方を学びました

■現在の到達点や成果

- ・地域移行の定義の共有：圏域における地域移行の範囲について共通認識が形成しました
- ・提言作成：提言書の実効性を高めるため、具体的な数値的根拠（ニーズ調査）や成功事例の活用、具体的な金額目標についても提言書内容の具体化（家賃補助の増額など）の提示が必要であるという方向性が整理されました

- ・課題の可視化：ケース検討（GHからの一人暮らし等）を通じて、「体験の場」の不足や、市営住宅のバリアフリー化の遅れ・空き不足といった地域の住宅事情の課題が明確化しました
- ・外部組織との連携強化：居住支援法人や居住支援協議会との連携の必要性を確認したほか、民間団体との連携イベントを通じて住まいの確保に向けた協力体制を築き始めています

■今後の方向性や次年度の予定

- ・提言書を通じて行政への働きかけ：今後も具体的な制度創設について両市へ働きかけます
- ・「動機づけ支援」の重視：当事者が地域生活に希望を持てるよう「動機づけ支援」や、支援者自身の意識改革に重点を置いた活動を継続します
- ・体験の場の確保に向けた検討：短期的な体験利用ができるよう、GH や民間資源の活用など、具体的な「体験の場」の確保策を検討します
- ・視察研修の実施：今後も施設等の見学などを行い、さらなる実態把握を進めていく予定です

・虐待防止研修会

(地域移行推進班・当事者サポーター推進班・権利擁護虐待防止班
および湖北基幹相談支援センターふらっととの共同開催)

日時：令和7年12月10日(水) 13:30～15:30

場所：長浜まちづくりセンター多目的ホール

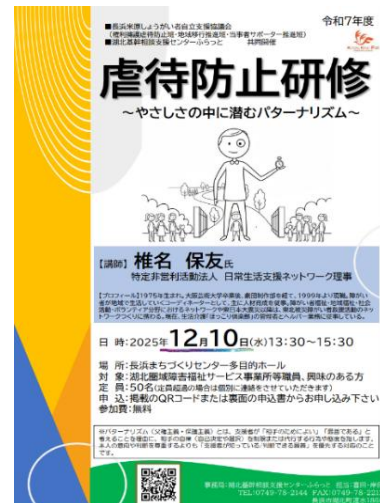
テーマ：虐待防止研修～やさしさの中に潜むパターンナリズム～

講師：特定非営利活動法人日常生活支援ネットワーク理事

椎名保友氏

参加者：65名

参加者からは「利用者のことを本当に考え、ご本人の立場に立って行動しているか。利用者さんはどう思っているのか。利用者さん一人一人について考えていきたいと思います」等の感想が寄せられました



↑当日の研修会の様子

2 ライフステージ専門性部会

■活動の目的

部会のテーマ【人・制度づくり】を実現するために、「学齢期班」「専門的人材班」「成人高齢班」の3つの作業班それぞれの切り口から協議をおこない、作業班の活動状況の共有と協議事項の整理を目的としています。

■参画事業所

部会長：川寄誠一（湖北相談処すだち）

世話役：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/拠点 Co）、山口毅（湖北基幹相談支援センターふらっと/拠点 Co）

参画：（学齢期班/専門的人材班発達グループ/専門的人材班セラピストグループ/成人高齢班のメンバー）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月2日 10:00~11:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	7
第2回	11月25日 10:30~11:55	長浜まちづくりセンター3A会議室	9
第3回	2月27日 10:30~12:00	長浜まちづくりセンター3A会議室	7
現地視察研修	12月2日 13:00~15:00	大津市多機能型地域生活支援拠点 「G-square」視察研修	10
視察振り返り	1月9日	長浜まちづくりセンター3A会議室	3
	1月14日	長浜まちづくりセンター1C会議室	7



↑ライフステージ専門性部会コア会議の様子

■活動実績（定例会議以外の活動）

①現地視察研修について

【目的】今後の取り組みや協議に活かすため、先進的な取り組みや専門的な知識を学ぶ機会として、視察研修を実施しました。

【視察日時】令和7年12月2日（火）13:00～15:00

【視察先】大津市多機能型地域生活支援拠点 G-square

大津市多機能型地域生活支援拠点「G-square」視察研修実施要項

- 主催
長浜米原しょうがい者自立支援協議会
- 目的
本視察研修は、発達障害および知的障害のある方への支援に関する人材育成を目的とし、とくに環境調整と地域移行に重点を置いて実施します。視察先である大津市の「G-square」は、入所機能と生活介護機能を併設しつつ、全室個室・ユニットケア・職住分離といった支援環境の整備を実践しています。また、同敷地内にグループホームを新設し、入所から地域生活への移行を視野に入れた取り組みも進めています。本研修を通じて、以下の点を目的とします。
① 環境調整に基づく支援の工夫を理解し、日常支援に活かす視点を習得する。
② 地域移行に向けた施設の取組みや実践的な工夫を学ぶ。
③ 職員との意見交換を通じて、自地域における環境調整・地域移行支援の展開可能性を探る。
④ 視察後の振り返りを通じ、支援者自身のスキル向上と地域における支援体制強化につなげる。
- 日時
2025年12月2日（火）13:00～15:00
- 会場
大津市多機能型地域生活支援拠点（G-square）・ステップ広場ガル
住所：大津市石山千町 270-3
- 対象者
長浜米原しょうがい者自立支援協議会ライフステージ専門性部会（学齢期班・専門人材班・成人高齢班）メンバー
- 参加人数
最大15名（参加希望者が多数の場合は、事務局にて選考のうえ決定いたします。）
- 参加費
2,000円（当日集金）※昼食代等は各自負担ください
- 移動手段
貸し切り小型バス

9. 日程（工程表）（予定）

時間	内容	場所	備考
10:30	集合・出発	長浜市役所駐車場	貸し切りバス
11:30	昼食	華津SA（予定）	各自負担
12:20	出発		
12:50	到着	G-square	
13:00	施設見学	ステップ広場ガル	
15:00	出発	バス車内	（アンケート記入）
16:30	解散	長浜市役所駐車場	
18:00	懇親会（任意）	長浜駅周辺	希望者のみ

10. 申込方法

参加希望者は、11月10日（月）までに、下記のQRコードから申し込んでください。
※申込締切後、11月20日（木）をめぐりに研修参加の可否についてご連絡を、メールにてお送りします。



11. 問い合わせ先

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 事務局 担当：喜田
TEL：080-8507-5930
E-mail：kikanhousei@nagahama-shakyo.or.jp



↑視察研修実施要項

大津市多機能型地域生活支援拠点 G-square

（しが夢翔会ホームページより）→

事業形態を教えてください	生活介護/相談支援・拠点CO/就労移行/計画相談・基幹相談/就労継続支援 B 型/生活介護/生活介護
障害福祉分野での経験年数を教えてください（通算）	16年/20年/10年/13年/14年/22年/16年
視察先で特に印象に残った取り組み・仕組み・環境整備を3つ挙げてください。	<p>①支援区分5や6の重い利用者をGHで生活してもらっていること。 ②刺激を減らす為にPECSで利用者とコミュニケーションしていること。 ③リビングを2ヶ所に設定し、トラブルを防止している所。</p> <p>①仕組み：地域、自立支援協などから課題抽出して整備、バックアップを受けている ②取り組み：法人事業の整理、多機能型地域生活拠点の仕組み ③環境整備：刺激の少ない環境</p> <p>①建築費、補助金について ②施設内の間取りの取り方について ③スタッフの配置について</p> <p>・グループホーム（GH）内にヘルパー事業所職員の待機所が設けられている点。支給量も必要十分に出ており、コミュニケーションブックやモニターなどを活用して、本人の特性に合った支援体制が、少人数かつ慣れた職員で構成されている。職員が本人の具体的な支援案をしっかりと考え、それが実現されている。 ・自立支援協議会での取り組み、行政の理解、利用者の家族の想いが重なり、多額の補助金活用が可能となったこと。地域移行を障害福祉課や地域自立支援協議会で実行している（実行していかなければならない体制を自ら作っている）点。 ・やりすぎず、こだわりすぎず、「余白」を残した支援体制。ニーズへの対応だけでなく、現場の職員を巻き込んで法人の中長期計画を立てている点。 ・「のぞみの園」のご利用者がGHを利用する際、複数の事業所で連携しながら24時間体制で支援されていた点。 ・GHが（刺激の軽減のために）シンプルに作られたつとも、生活感がしっかり残されている点。 ・きめ細やかな支援のため、「支援統括シート」などのツールを作成されていた点。 ・行動障害のある方が過ごしやすい環境を作るため、小グループ化したGHを作り、かつバックアップしやすいように3つのGHを隣接して配置している点。 ・利用者の特性や支援を配慮した環境設定。 ・行動障害のある方の生活の場について自立支援協議会で長年検討し、行政に要望して実現させた点。 ・シンプルな建物で、一人一人に個室が用意されている点。 ・何度も話し合いを重ね、支援員の意見などを聞きながら建てられた点。 ・支援員間でしっかりと情報共有がなされている点。</p>

↑視察研修参加者からのレポートまとめ（抜粋）

(1) 学齢期班

■活動目的

本班は、発達に課題のある子どもとその家族に対し、乳幼児期から高校卒業、さらには成人期への移行までを見据えた「切れ目のない支援体制」の構築を目的としています。活動の柱として、支援者が子どもの視点や思いを理解し代弁する「子どものアドボカシー（権利擁護）」の視点を重視し、地域全体の支援体制の質の向上を目指しています

■参画事業所等

座長：川寄誠一（湖北相談処すだち）

世話役：山口毅（湖北基幹相談支援センターふらっと/拠点 Co）

参画：（CIL だんない/長浜市教育センター/長浜養護学校/長浜市発達支援室/長浜市健康推進課/米原市発達支援センター/長浜市相談支援事業所/こども療育センターいちご園/米原市児童発達支援センターてらす/ふくしあ/湖北地域障害者生活支援センター「あ〜と」/スポーツひろばアクト NEXT/放デイアオ/あっぷでーと/湖北基幹相談支援センターふらっと/長浜市しょうがい福祉課/滋賀県発達障害者支援センター）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数（人）
第1回	6月10日 10:00~11:40	長浜市民交流センター	19
第2回	7月16日 13:30~15:00	神照まちづくりセンター	17
第3回	9月16日 10:00~11:30	神照まちづくりセンター	15
第4回	11月11日 10:00~11:30	南郷里まちづくりセンター	17
第5回	1月13日 10:00~11:30	南郷里まちづくりセンター	17

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■今年度の取組み

今までの活動から、「相談窓口の不明確さ」「関係機関の縦割りによる支援の途切れ」「保護者の孤立」といった地域課題が抽出され、今年度は以下の取り組みを重点的に実施しました。

- ・ 地域連携推進マネジャー制度の検討：厚生労働省の専門官を招いた勉強会等を開催し、教育・福祉・家庭を繋ぐコーディネート機能を持つ「地域連携推進マネジャー」の必要性や、地域に即した配置・役割について議論を重ねました
- ・ 家族支援策（ペアレントメンター等）の学習：滋賀県発達障害者支援センターより、親同士が支え合う「ペアレントメンター」の役割や、ペアレント・トレーニングによる家族のスキル向上支援について学び、地域での運用体制を検討しました
- ・ 関係機関との連携強化：両市の健康推進課等と連携し、乳幼児健診から学齢期へのスムーズな移行についての情報交換、先進地事例を参考に、圏域での活用可能性を協議しました

■現在の到達点や成果

- ・ 課題の「見える化」と共有：相談支援専門員の不足により、長浜市では児童の40%以上が「やむ

を得ないセルフプラン」であるといった具体的な現状を共有しました

- ・ 専門職間のネットワーク構築：教育、福祉、行政の担当者が「顔を合わせる」場を継続することで、立場の違いを超えた「共通言語」を持つ重要性を再認識しました
- ・ 新制度導入への合意形成：地域連携推進マネージャーやペアレントメンターが、既存の支援の「隙間」を埋める役割として有効であるとの認識が班内で一致しました

■今後の方向性や次年度の予定

- ・ 支援体制のさらなる「見える化」：両市の児童発達支援センター等の担当者を引き、具体的な業務内容を突き合わせることで、支援の隙間についてディスカッションを実施していきます
- ・ マネジメント機能の導入検討：視察等を通して地域連携推進マネージャーの機能導入にあたっての既存資源の組み替えや予算確保等について学び、具体的に取組みを推進します
- ・ 組織の再編と名称変更の検討：「学齢期」という枠に捉われず、乳幼児から卒業後までの実態に即した検討を行うため、「こども班（仮）」へ名称変更します
- ・ アドボカシーの推進：支援の中心に常に「こども本人の意思」を置くマインドセット（考え方）を、地域の共通認識として定着させるための活動を継続します

<p>厚生労働省 令和7年度 発達障害者支援の取り組みについて ～教育・福祉連携と家族支援を中心に～ 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域生活・発達障害者支援室</p>	<p>家庭・教育・福祉の連携推進事業（令和元年～） 教育と福祉の連携については、地域での切れ目ない支援が求められており、厚生労働省・文部科学省において「家庭と教育と福祉の連携（トライアングル）プロジェクト」を立ち上げ、報告をとりまとめ、各市町村がこの報告書における教育と福祉の連携を推進し、保護者支援を推進するための方針を実施し、その検証結果について報告を行う事業を実施する。 教育・福祉の連携を強化し、障害のある子どもとその家族の地域生活の向上を図るため、家庭・教育・福祉をつなぐ「地域連携推進マネージャー」を市町村に配置し、 ①教育と福祉の連携を推進するための方針 ○教育委員会、福祉部局、学校、障害児通所支援事業所の関係構築の促進 ○障害福祉制度の周知を図るための福祉部局と教育委員会等による合同研修の実施 ②保護者支援を推進するための方針 ○保護者支援のために相談窓口を整理し、ハンドブックの作成等の連携方針を実施する。 市町村単位で「家庭・教育・福祉の連携を実現！！」</p>	<p>地域連携推進マネージャーの役割 イメージ ①教育と福祉等の関係構築の場の設置及び会議の開催 ○関係構築の場を設置するための関係者の選定 ○関係者の予定を調整し、会議の開催 ○会議のファシリテート 多職種の関係者の関係構築 ②合同研修の実施 ○研修の企画 ○研修講師の選定 ○研修受講の案内作成 研修の開催 地域連携推進マネージャー 教育・福祉の支援者の能力開発及びスキル向上 ③保護者等に対する相談窓口 ○保護者等に対する相談支援の実施 ○保護者等に地域の資源を紹介 ○保護者のニーズを教育関係者、福祉関係者に伝える 保護者等が適切な支援にたどり着くことができる 地域連携推進マネージャーは、公認心理師や社会福祉士等を想定</p>
---	---	--

↑家庭と教育と福祉とをつなぐ「地域連携推進マネージャー」について、厚生労働省社会・援護局障害福祉部 発達障害対策専門官による学習会をオンライン（ZOOM）にて実施。講師資料抜粋

グループワーク (2)

<p>期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域連携推進で各機関に連携すること ・ 教育と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) ・ 学校と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) ・ 福祉と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) ・ 福祉と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) ・ 福祉と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) 	<p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) ・ 学校と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) ・ 福祉と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) ・ 福祉と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) ・ 福祉と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) ・ 福祉と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) ・ 福祉と福祉の連携 ○ 会議の場を設けること!! 定期的に行うこと!! (週1回程度) 	

↑「地域連携推進マネージャー」についてグループで意見交換（グループメモ抜粋）

滋賀県の
家族支援事業について

滋賀県発達障害者支援センター 相談員 前田 智仁

2025.11.11(火)
長浜市原しようがい者自立支援協議会
ライフステージ専門性部会学齢期班研修用

↑県家族支援事業について、県発達障害者支援センターより講演いただく（講師資料抜粋）

(2) 専門的人材班

本班は、圏域における専門的人材の育成・活用促進、支援の質の向上を目的として活動しています。2つのグループに分かれて活動を実施しました。

①専門的人材班発達G（グループ）

■活動の目的

本班は、支援者が頼りたい支援者の育成を主な目的としています。そのための土台として重要な「チーム支援」のあり方を見直し、各事業所における支援体制の強化を図ることを目指しています。また、事業所間での意見交換を通じて、現場が抱える課題を共有し、解決に向けた具体的なアクションにつなげることを目的としています

■参画事業所等

GL（グループリーダー）：井下山貴（ライフまいばら） SGL（サブグループリーダー）：高田泰裕（いぶきやま） 世話役：山口毅（湖北基幹相談支援センターふらっと/拠点 Co）

参画：（湖北相談処すだち/ゆるり/ひので/やまぶき/スイートハート/ワークスさぼてん/湖北まこも/いぶきやま/ほおずき作業所/ふくらの森/つつじ作業所/県発達障害者支援センター/長浜市発達支援室/長浜市しょうがい福祉課/湖北基幹相談支援センターふらっと）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月21日 18:00~19:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	17
第2回	7月24日 18:00~19:30	長浜まちづくりセンター1B会議室	16
第3回	9月25日 18:00~19:30	南郷里まちづくりセンター会議室	14
第4回	1月22日 18:00~19:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	14
第5回	3月26日 18:00~18:45	南郷里まちづくりセンターA会議室	8

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■今年度の取組み

今年度は、現場のリアルな困りごとから出発し、段階的に具体的な改善策（アクションプラン）へと落とし込んでいくプロセスを重視しました。

- ・「チーム支援で困っていること」の洗い出し：KJ法※を用いたグループワークを行い、支援に関する知識・経験の差や、統一した支援の難しさ、家族支援の必要性といった多岐にわたる課題を共有しました
- ・テーマの絞り込みと深掘り：意見交換を踏まえ、特に重要とされる「事業所内のチーム支援・連携」および「人の配置・職員のスキル」の2点に焦点を当て、さらに議論を深めました
- ・アクションプランの策定：これまでの現状分析をもとに、自事業所で「できていること・良いところ」を再確認した上で、さらに強化したい点や新たに取り組みたい点を選定し、事業所内で実行するためのアクションプランを作成しました

※KJ法とは…川喜田二郎氏が考案した、意見を付箋等により可視化し、類似性に基づき整理・構造化する手法。（出典：『発想法』中央公論新社）

■現在の到達点や成果

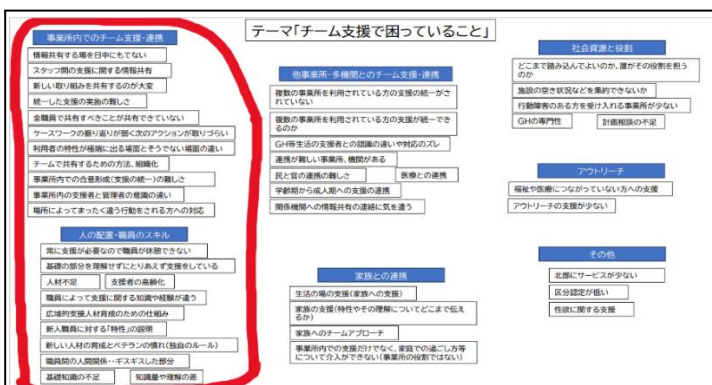
- ・ 共通認識の形成： 専門的な支援の質を向上させるためには、基本的な要素である「チーム支援」が不可欠な土台であるという認識を、班員全体で共有することができました
- ・ 自事業所へのフィードバック体制の構築： 単なる議論に留まらず、各事業所において具体的な改善活動を開始するためのアクションプランを作成し、「現場で実行し、その結果を報告する」という実践的なサイクルを確立しました
- ・ 多様な事例の共有： 複数のグループワークを通じて、事業所ごとの成功事例や工夫、あるいは共通する困難さが可視化され、相互に学び合える環境を整えました
- ・ 先進地見学の実施： 社会福祉法人しが夢翔会「G-square」の見学を実施し、他地域の優れた取り組みを学ぶことで、支援の視点を広げる機会を設けました

■今後の方向性や次年度の予定

- ・ アクションプランの実行と評価： 策定したプランを各事業所で実行し、班においてその成果や課題を報告・共有することで、さらなる改善へとつなげます
- ・ 次年度への継続的な取り組み： 今年度の取り組みを通じて見えてきた「チーム支援」の実践結果をベースに、今後も活動を継続させていく予定です



↑活動の様子



←KJ 法を用いて現場のリアルな困りごとを洗いだしました

自事業所でできていること、さらに強化したい点や新たに取組みたい点を選定、事業所内で取り組むためのアクションプランシートを作成しました

→

氏名 _____	
(ア)【事業所内でのチーム支援・連携】	(イ)【人の配置・職員のスキル】
目標 (出来ていること・良いところ) から自分の所属する事業所で実施したいこと、実施できそうなことをひとつ記入	目標 (出来ていること・良いところ) から自分の所属する事業所で実施したいこと、実施できそうなことをひとつ記入
アクション (目標に向けて具体的な行動を思いつく/振り返る)	アクション (目標に向けて具体的な行動を思いつく/振り返る)

※このシートは回収しますので、**持ち帰り厳禁**です。必要な方はスマホで写真に保存してください。

②専門の人材セラピスト※G (グループ)

※セラピストとは…治療や療法を行う人のこと。PT (理学療法士)、OT (作業療法士)、ST (言語療法士) 等。(出典: デジタル大辞泉)

■活動の目的

本班は、地域の支援者等がセラピストへ相談する際のハードルを下げ、地域における連携体制を構築することを主な目的としています。昨年度までの協議により、「適切な相談先が分からない」といった理由から、セラピストの関わりが十分でない実態が示唆されていました。地域のセラピストが圏域の困りごとを把握し、「医学的リハビリテーション (機能を治す)」だけでなく、「社会的リハビリテーション (生活・環境を整える)」の視点を持って地域福祉に貢献できる仕組みづくりを目指しています。

■参画事業所等

GL (グループリーダー): 大宮佑介 (アクト)

世話役: 鍵弥寿彦 (相談支援事業所ピットイン/拠点 Co)

参画: (アクト/ふくしあ/ひかり園・輝湖里/県立リハビリテーションセンター/ひだまり/湖北基幹相談支援センターふらっと)

■活動実績 (定例会議等)

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月22日 10:30~12:00	北郷里まちづくりセンター会議室 B	7
第2回	5月27日 10:30~12:00	北郷里まちづくりセンター会議室 AB	6
第3回	6月24日 10:30~11:45	北郷里まちづくりセンター会議室 B	9
第4回	8月26日 10:30~12:00	北郷里まちづくりセンター会議室 B	5
第5回	10月28日 10:30~12:00	北郷里まちづくりセンター会議室 B	7
第6回	12月1日 13:30~15:00	北郷里まちづくりセンター会議室 B	9

第7回	1月26日 10:30~12:10	オンライン(ZOOM)会議	9
第8回	2月24日 13:30~15:30	南郷里まちづくりセンターA会議室	6
研修会	3月6日 13:30~15:30	長浜まちづくりセンター多目的ホール	26

■今年度の取組み

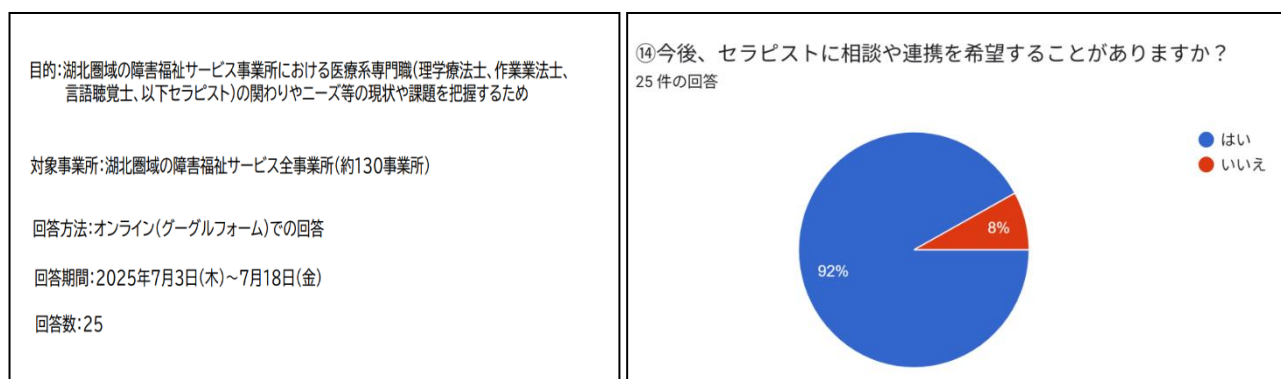
- ・ 現状把握のためのアンケート実施：圏域の全事業所を対象に、セラピストへのニーズや関わり、現場の困りごとを把握するためのアンケートを実施しました
- ・ アンケート結果の集計・考察：アンケート結果から、児童分野では特性理解、成人分野では環境設定や身体機能の評価に課題を感じ、セラピストに相談したいというニーズを共有しました
- ・ 研修会の企画・検討：アンケートで明らかになった「相談先の不明さ」等の課題を解決するきっかけとして、研修会開催しました。研修は、セラピストの役割や機能を具体的な事例を通して知っていただくことや、日頃の困り事等についてグループで意見交換する内容で実施しました

■現在の到達点や成果

- ・ 地域ニーズの可視化：アンケートを通じて、事業所がセラピストに対して「当事者が過ごしやすい環境設定等」への助言や指導を強く求めている実態を具体的なデータとして把握しました
- ・ セラピストの役割の再定義：椅子や机の配置変更等、細かな環境調整が当事者の安心や安定に繋がるという視点を共有し、「社会的リハビリテーション」の重要性を明確化しました
- ・ 連携体制の強化へ向けた取組み：今後、地域のセラピストグループ「湖ほっ子リハの会」との連携に向け、多職種で地域の課題を協議する基盤を強化しました
- ・ 研修会の開催：令和8年3月6日に「障害福祉サービス事業所で活かすセラピストの専門性」と題して研修会を開催しました

■今後の方向性や次年度の予定

- ・ 研修会の実施と実績の蓄積：研修会で参加者の声やニーズをさらに収集しました。今後も、地域の課題としての「根拠」や「実績」として活かしていく予定です
- ・ 体制構築のための検討：セラピスト確保には費用面等の課題があるため、市による独自の予算確保や「巡回相談事業」の実施など、圏域の体制構築に向けて協議をすすめていく予定です
- ・ 予防的アプローチの推進：状態が悪化してからではなく、「転びやすくなった」等の予防的な段階でセラピストが関われるような地域の仕組みづくりを目指し、継続して検討します



↑ → 「セラピストとの関わりについて」アンケート集計結果より抜粋

○研修会（専門の人材班セラピストグループ主催）

開催日時：令和8年3月6日（金）13:30～15:30

場所：長浜まちづくりセンター多目的ホール

テーマ：セラピストの専門性を活かした障害福祉サービス事業所の
 取り組み

話題提供者：

①セラピストの専門性を活かした障害福祉サービス事業所の取り組み

米原市地域包括医療福祉センターふくしあ 中瀬 弘士氏

②県立リハビリテーションにおける取り組み事例

滋賀県立リハビリテーションセンター 山原昌氏

参加者：26名

専門の人材班セラピストグループ主催

セラピストの専門性を活かした
 障害福祉サービス
 事業所の取り組み

実践事例
 紹介

日時 2026. 3.6 金
 時間 13:30～15:30
 場所 長浜まちづくりセンター
 多目的ホール
 対象 湖北圏域障害福祉サービス
 事業所・関係機関職員、そ
 の他興味のある方
 締め切り 2月27日（金）

本研修の経緯
 ・湖北圏域の障害福祉サービス事業所では、利用者
 の高齢化や障害特性の多様化に伴い、姿勢保持
 や日常生活場面の介助、訓練場への支援に加
 え、作業・生活環境の調整など、セラピストの専
 門性が求められる場面が数多く見られる。
 ・一方で、「相談先が分からない」「気軽に専門
 職へ相談できない」といった課題が、今年度のア
 ンケート調査から明らかになった。
 ・本研修会では、セラピストへの相談をきっかけ
 に事業所内で行った取り組みについて具体的な事
 例を共有し、事例をもとに今後のよりよい取組
 みについて、参加者とともに考える機会とする。


研修内容

①セラピストの専門性を活かした
 障害福祉サービス事業所の取り組み
 米原市地域包括医療福祉センターふくしあ
 作業療法士 中瀬 弘士氏

②県立リハビリテーションセンター
 における取り組み事例
 滋賀県立リハビリテーションセンター
 作業療法士 山原 昌氏

お問い合わせ
 長浜米原しょうがい者自立支援協議会事務局 担当：津田
 ☎0749-78-2144
 ✉kkanchoon@nbggmsm-hukuyai.jp

お申し込みは下記コードからお申し込みいただけます。
 参加申し込み
<https://forms.gle/9jFjeQhweKTEC230P6>



参加者からは、「色々な地域での取り組み等知ることができて良かった」、「社会的リハビリテーションという考え方によって、自分たちもそこに関わって、一緒にやっていけるのだと思えた。また、この考えが広がっていくことで地域が良い方向に進んでいけるのではないかという可能性を感じた」等の感想が寄せられました



↑ 研修会の様子

(3) 成人高齢班

■活動の目的

本班は、主に障害者の高齢化や重度化に伴う心身の変化へ適切に対応することを目的としています。具体的には、既存の活動がマンネリ化することを打破し、支援を担う人材の育成につなげるため、複数の事業所が連携してそれぞれの資源やノウハウを共有し合う合同レクリエーションなどの場を検討しています。また、介護保険サービスの利用に対して抱きがちなネガティブな印象を払拭し、「本人の生活がより豊かになる」ための支援の在り方を、成功事例の共有などを通じて探求することを目指しています。

■参画事業所等

座長：氏原優（ほおずき作業所）/副座長：曾我英男（ふくらの森）

世話役：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/拠点 Co）

参画：(湖北相談処すだち/相談支援事業所ピットイン/障害者支援センターそら/相談支援事業所かなで/友愛ハウス/ひかり園・輝湖里/あそしあ/長浜市しょうがい福祉課/湖北基幹相談支援センターふらっと)

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	6月5日 10:00~11:30	南郷里まちづくりセンター	13
第2回	8月8日 10:30~11:40	南郷里まちづくりセンター	10
第3回	10月7日 10:30~11:45	神照まちづくりセンター	12
第4回	12月12日 10:30~12:00	長浜まちづくりセンター	9
第5回	2月13日 10:30~11:30	長浜まちづくりセンター1C会議室	11

※すべての会議の開催前にコアメンバーで運営会議を実施

■今年度の取組み

- ・ 事業所の実態把握と方向性の検討：年度当初に制度の違いの理解やアドボカシーの重要性、受け皿となる事業所の人的・環境的整備の必要性を確認しました
- ・ 合同レクリエーションに向けた資源調査：各事業所が持つ特技（アロマ、ヨガ等）や地域のボランティア資源を出し合い、具体的な内容（ハンドマッサージ、楽器演奏等）を共有しました
- ・ 介護保険移行事例の検討：実際の移行事例に基づき、キーパーソンが存在、サービス調整のプロセス、経済的負担の変化、本人の生活の質（QOL）の向上といった多角的な視点からケーススタディ（事例研究）を実施しました

■現在の到達点や成果

- ・ レクリエーション活動のスキルの体験と有効性の確認：班員自らがアロマハンドマッサージの体験会を実施し、リラクゼーション効果や現場での活用可能性を確認しました
- ・ ポジティブな事例の共有：介護保険サービスの利用により、毎日入浴が可能になり清潔が保持された事例や、デイサービスの利用時間が延びて他者交流が増えた事例を共有し、介護保険サービスの利用に対する否定的な印象を払拭する契機となりました
- ・ 多職種・多機関による多角的な分析：相談支援専門員や市、各事業所職員が参加し、制度の狭間で困難を抱えるケースや、新高額障害福祉サービス等給付費の活用による経済的課題の解決など、実践的な学びを深めることができました

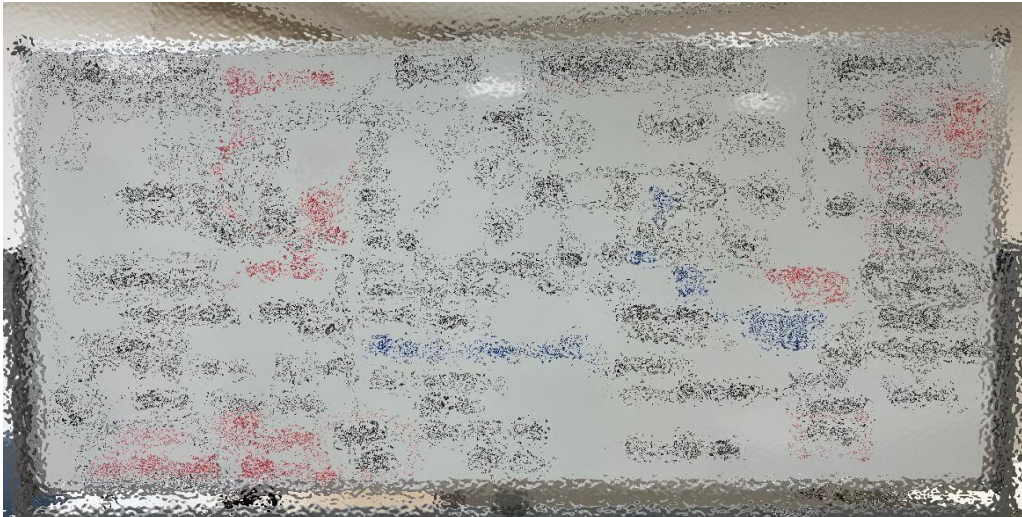
■今後の方向性や次年度の予定

- ・ 先進地視察研修の実施：高齢者と障害者を一体的に支援する「富山型デイサービス」の先進的な取組みについて視察を具体化し、地域の受け皿整備のヒントを得ます
- ・ インクルーシブな地域づくりの推進：地域における現地体験等を通じ、地域の中での高齢障害者の居場所づくりについて具体的に検討を進めます
- ・ 介護保険事業所との相互理解の促進：パネルディスカッションなどの場に介護保険側の職員を積極的に招



ます

↑アロママッサージを班員が体験している様子



↑介護保険への移行に関する事例共有及び検討の様子（写真はぼかしています）

3 社会資源環境部会

■活動の目的

部会のテーマ【まちづくり】を実現するために、「住む」「暮らす」なかで不安を抱える人たちが安心して生活できるように地域啓発や地域とともに活動しています。そのためにも「権利擁護虐待防止班」「重介護医療ケア検討班」「あるべき姿検討班」の3つの作業班それぞれの切り口から協議をおこない、作業班の活動状況の共有と協議事項の整理を行っています。

■参画事業所

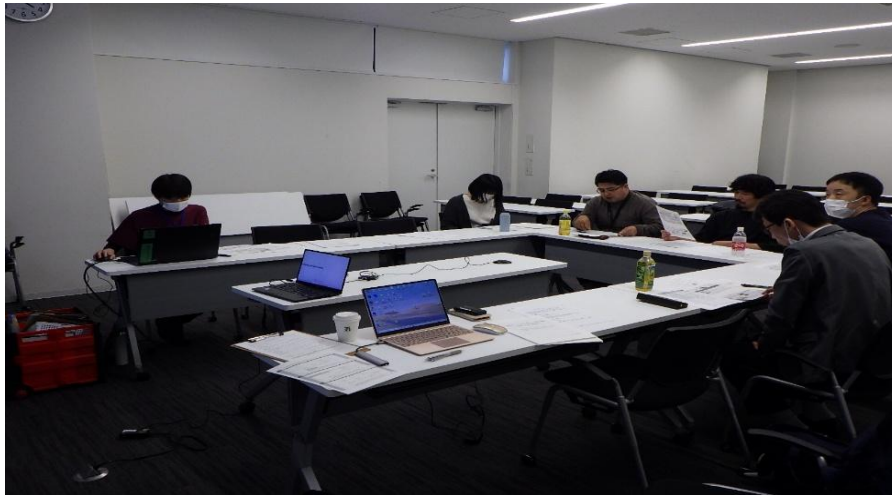
部会長：河井孝典（重症心身障害者通所施設えがお）

世話役：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/拠点 Co）、山口毅（湖北基幹相談支援センターふらっと/拠点 Co）

参画：（権利擁護虐待防止班/重介護医療ケア検討班/あるべき姿検討班のメンバー）

■活動実績

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	5月2日 15:30~17:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	6
第2回	8月26日 15:30~16:45	長浜まちづくりセンター3A会議室	5
第3回	2月20日 10:00~11:15	長浜まちづくりセンター3A会議室	3



←社会資源環境部会
コア会議の様子

(1) 権利擁護虐待防止班

■活動の目的

本班は、湖北圏域における障害者の権利擁護および虐待防止の推進を目的として活動しています。具体的には、支援者が自らの関わりを振り返るためのツールの整備、事業所間の相互理解と支援の質の向上、そして地域住民への普及啓発を通じて、障害者が安心して暮らせるまちづくりの実現を目指しています

■参画事業所等

座長：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/拠点 Co）

参画：（ひかり園・輝湖里/ひかり福祉会 GH/えがお/あそしあ/湖北基幹相談支援センターふらっと/CILだんない/ひだまり/長浜市民生委員児童員協議会/米原市権利擁護センター/長浜市権利擁護センター/長浜市しょうがい福祉課/米原市障がい福祉課/長浜市議会議員）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月24日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター3A会議室	12
第2回	5月22日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	13
第3回	6月26日 13:30~14:40	南郷里まちづくりセンター	13
第4回	7月24日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	12

第5回	8月28日 13:30~15:00	南郷里まちづくりセンター会議室 A	10
第6回	9月25日 13:30~15:00	南郷里まちづくりセンター会議室 A	9
第7回	10月23日 13:30~14:45	長浜まちづくりセンター1C 会議室	12
第8回	11月21日 13:20~15:00	ひかり園・輝湖里(事業所訪問)	9
第9回	12月25日 13:30~15:00	南郷里まちづくりセンター会議室 A	10
第10回	2月26日 13:20~15:00	えがお(事業所訪問)	9
第11回	3月26日 13:20~15:01	南郷里まちづくりセンター会議室 A	7

■今年度の取組み

- ・ 湖北版自己チェックシートの作成と試行・修正: 昨年度から継続して協議してきた「自己チェックシート」のブラッシュアップを行いました。班員が所属する事業所でモデル実施を行い、現場の職員等の意見を反映させて、より具体的で使いやすいものへと修正を重ねました
- ・ 事業所訪問の実施: 支援者が自ら振り返るツールの作成だけでなく、より直接的に支援現場を学び合う「事業所訪問」へと活動を発展させました
- ・ 普及啓発活動(ソーシャルアクション): 10月に開催された「国スポ」のイベントに参加し、権利擁護に関するチラシやパンフレットの配布等を通じて、広域的な啓発活動を実施しました
- ・ 虐待防止研修会の開催: 地域移行推進班・当事者サポーター推進班・基幹相談支援センターと共同で、「パターンナリズム(良かれと思って本人の意思を制限してしまう関わり)」をメインテーマに支援者向けの研修会を企画・開催しました

■現在の到達点や成果

- ・ 「湖北版自己チェックシート」の完成: 現場での試行を通じて、「できている／できていない」の二択ではなく、振り返りを促す選択肢の設定や、肯定的な表現への修正を行い、職員が自らの支援を客観的に見つめ直すための実用的なツールを整備することができました
- ・ 「パターンナリズム」への理解深化: 「パターンナリズム」という概念について具体的な学びを得、日頃の支援を振り返る機会と支援者の意識変革に向けた大きな一歩となりました

■今後の方向性や次年度の予定

- ・ 事業所訪問の継続とフィードバック体制の構築: 次年度も引き続き事業所訪問を実施し、見学で得た気づきを事業所に還元し、圏域全体の支援の質を底上げするフィードバックの仕組みを検討します
- ・ 湖北版自己チェックシートのさらなる活用と周知: 完成したチェックシートと手引書を、いかに圏域内の各事業所で活用してもらうかが今後の課題であり、継続して検討します
- ・ 研修会の企画・開催や情報収集: 研修会の企画・開催や、県条例(障害者差別のない共生社会づくり条例)の改正動向など、外部の最新情報を注視し、班の活動に反映させていきます
- ・ 虐待報告に基づく対策の検討: 両市の虐待防止センターと情報共有の機会や、実効性のある研修、自己点検のあり方を継続的に協議していきます



↑活動の様子

実施日： 年 月 日

長浜市障害者支援センター「しょうがい児者虐待防止セルフチェックシート」
 ※自治体の自治体長官に対して取り次ぎ、回答欄にサインして頂きたい。印刷に使う場合は、印刷設定に「印刷範囲」を指定して下さい。

項目	回答欄	自由記述欄
1 利用者への虐待、悪質な扱いや不当な下着はきけられている	□できていない □できています	
2 利用者本人の意思、願い、方針や目標が尊重されている	□できていない □できています	
3 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
4 利用者への説明、説明が不十分である	□できていない □できています	
5 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
6 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
7 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
8 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
9 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
10 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	

チェック項目	チェック欄	自由記述欄
11 施設内で利用者本人の意思、方針、目標が尊重されている	□できていない □できています	
12 施設内での安全確保が適切に行われている	□できていない □できています	
13 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
14 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
15 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
16 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
17 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
18 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
19 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	
20 利用者本人の意思に反して決定がなされている	□できていない □できています	

取組み経過
 ①2024年6月頃より「ツール」湖北版「自己チェックシート」の検討

湖北版☆自己チェックシートについて
 <作成するにあたって大切にしたいこと>

- ・湖北圏域のすべての事業所が活用できるものであること
- ・客観的に振り返れるよう、以下の点を工夫しました

質問項目をカテゴリーに分ける…何についての質問かを明確にし、回答者が意識できるようにしました

回答のしやすさ…回答形式「できていない」「できたりできなかったりする」の選択性にし、チェックしやすいものにしました

自由記述欄の設け…判断に迷う時に具体的に記載することで、振り返りや気づきを促しました

具体的な例示…質問項目に「長時間」など曖昧な表現は避け、イメージしやすい項目としました

利用者本人の権利擁護の視点を盛り込み、改めて振り返る機会がもてるようにしました

↑湖北独自の自己チェックシートを作成

↑自己チェックシートの手引き(抜粋)



↑事業所訪問の様子(ひかり園・輝湖里)



↑事業所訪問の様子(えがお)

(2) 重介護医療ケア検討班

■活動の目的

本班は、特に重度のしょうがいや医療的ケアが必要な児(者)が、地域で安心して生活できる支援体制の構築を目的としています。今年度は「災害対策」を継続しつつ、先進地視察を通じて「食支援」

や「専門医療との連携」に関する知見を深めることを活動の柱としました

■参画事業所等

座長：近藤真美（重症児者相談支援センターてくてく）

世話役：山口毅（湖北基幹相談支援センターふらっと/拠点 Co）

参画：（えがお/かけはし/ひかり園・輝湖里/ほおずき作業所/CIL だんない/滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センターこあゆ/ふくしあ/障がい者相談支援センターほたる/大空ひだまり/長浜市しょうがい福祉課/米原市障がい福祉課/湖北健康福祉事務所/長浜赤十字病院/市立長浜病院/浅井東診療所/中川医院/長浜養護学校/相談支援事業所ピットイン/湖北基幹相談支援センターふらっと）

■活動実績（定例会議等）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	4月17日 13:30~15:05	長浜まちづくりセンター1B会議室	15
第2回	5月15日 13:30~15:00	長浜まちづくりセンター1C会議室	16
第3回	7月17日 13:30~14:50	長浜まちづくりセンター1B会議室	15
第4回	8月21日 13:30~14:15	長浜まちづくりセンター1C会議室	15
第5回	10月16日 13:30~15:10	長浜まちづくりセンター1C会議室	18
第6回	11月20日 13:30~14:55	長浜まちづくりセンター1B会議室	16
第7回	12月18日 13:30~15:05	長浜まちづくりセンター1B会議室	16
第8回	1月15日 13:30~14:45	長浜まちづくりセンター1B会議室	17
第9回	2月19日 13:30~15:05	長浜まちづくりセンター1C会議室	13
現地視察 研修	6月19~20日	静岡（つばさ静岡、医療センター）	14
		ZOOM参加	2

※地域移行推進班と当事者サポーター推進班と合同で研修会を開催。

テーマ：「虐待防止研修～やさしさの中に潜むパターンリズム～」

開催日時：令和7年12月10日（水） 13:30~15:30 会場：長浜まちづくりセンター多目的ホール

講師：特定非営利活動法人日常生活支援ネットワーク理事 椎名保友氏

■活動実績（定例会議以外の活動）

①現地視察研修について

【目的】今後の取り組みや協議に活かすため、先進的な取り組みや専門的な知識を学ぶ機会として、視察研修を実施しました。

【視察日時】令和7年6月19日（木）～20日（金）

【視察先】

第1日程

①社会福祉法人小羊学園 つばさ静岡（静岡県静岡市葵区城北）

- ・ 講義「つばさ静岡の食支援」 講師：社会福祉法人小羊学園 つばさ静岡 医務部長 浅野一恵氏
- ・ 施設内見学・試食



↑ 現地視察研修の様子

②静岡市医療的ケア児等支援協議会との意見交換・交流会

お互いの市の現状や協議会の取組み等を報告後、意見交換や質疑応答を通して、交流を深めました



↑ 静岡市医療的ケア児等支援協議会との意見交換・交流会の様子

第2日程

①独立行政法人国立病院機構静岡てんかん/神経医療センター（静岡市葵区漆山）

「てんかん」に関して医師や看護師、保育士それぞれの立場や役割から講義いただきました。その後、院内見学や病院職員の方との意見交換を行いました。



↑ 静岡てんかん/神経医療センターでの視察研修の様子

参加者からのアンケート（一部抜粋）

- ・ 食事を通じて生活を見る視点の大切さを「つばさ静岡」で見せていただき、自身の日常業務において、リハビリを施すのではなく、対者児の環境や生活を見るように心掛けていきたいと思いました。てんかんセンターの受け入れが丁寧で気持ち良かった。また知識の学習もできよい時間だった。今後湖北と連携がとれていければありがたいと思いました
- ・ 第1日目は見学・試食がとても良かったです。今後の取り入れや地域でのリハの拡充に向けての必要性が再認識できたので、取組みとして行っていければと思います。また、静岡の方達との交流会も関係性づくりとして、とても良かったと感じます。第2日目は、改めての講義でしたが、よい学

びになりました。センターの有用性についても実感しました。具体的な検査（特に脳波）の体制を見ることができて、とても重要な場と実感した。どうつながることが良いのか考えたい

■今年度の取組み

- ・ 個別避難計画の推進と課題抽出：長浜市・米原市における個別避難計画の策定状況を確認し、医療依存度が高い層の把握に努めました。行政、保健所、相談支援専門員の役割分担や情報の共有不足といった課題を協議しました
- ・ 圏域独自の「避難確認表（フロー図）」の作成：地震、大雨、停電、大雪といった災害別に、本人や家族がとるべき行動を整理した共通様式の作成に着手しました
- ・ 実動訓練に向けた準備と下見：在宅の医療的ケア児（者）を対象とした避難訓練を企画し、一時避難先の下見を実施して、施設設備や受け入れ体制を確認しました

■現在の到達点や成果

- ・ 「避難フロー図」のブラッシュアップ：家族や支援者が迷わず行動できるよう、災害ごとの初期行動や連絡先を盛り込んだフロー図の修正案について意見交換しました
- ・ 自治体間の制度差異の明確化：長浜市と米原市における外部バッテリーや発電機等の購入補助制度の違いを整理し、関係者等への周知が必要であることを共有しました
- ・ 関係機関のネットワーク強化：保健所が持つ「災害時対応ノート」と市が作成する「個別避難計画」の連携について現状を把握し、足並みを揃えていくことの必要性を確認しました
- ・ 緊急避難先の確保：地域の診療所が一時避難先として垂直避難や電源確保が可能であることを実地で確認できたことは、大きな成果です

■今後の方向性や次年度の予定

- ・ 避難訓練の実施と検証：長浜市および米原市での訓練を実施し、見えてきた課題を個別避難計画に反映していく予定です
- ・ 情報伝達ツールの整理：複数の様式（個別避難計画、災害時対応ノート等）について、どのように整理し、どのようなシステムが望ましいか、より実用的なしくみを検討します
- ・ 福祉避難所の運用改善：施設等への協力依頼や、家族同伴の可否、開設タイミング等の詳細なルールについて行政と連携して明確化を図ります
- ・ ライフステージに応じた支援：重度の障がい児（者）や医療的ケア児（者）のフォロー体制など、成長段階で途切れない支援体制の構築を継続して検討します



←活動の様子

(3) あるべき姿検討班

■活動の目的

本班は、湖北圏域の障害福祉サービス事業所における職員の人材確保・育成・定着に関する実態を正確に把握することを目的としています。調査を通じて得られたデータを活用し、現場が抱える課題の整理、具体的な支援策の検討、および行政への提言を行うことで、地域における障害福祉サービスのあるべき姿を追求することを目指しています

■参画事業所等

座長：山瀬道範（ひかり園）

世話役：鍵弥寿彦（相談支援事業所ピットイン/拠点 Co）

参画：（CIL だんない/長浜市しょうがい福祉課/相談支援事業所ピットイン/湖北基幹相談支援センターふらっと）

オブザーバー：橋川健祐（金城学院大学）

■活動実績（定例会議）

回	日時	場所	参加数 (人)
第1回	10月7日 15:30~16:30	長浜まちづくりセンター3A 会議室	9

■今年度の取組み

今年度は、実態把握のための柱となる「職員の人材確保・育成・定着に関するアンケート調査」の企画・設計を行い、実際にアンケートを行いました。

- ・ 調査設計の検討: 湖北地域の障害福祉サービス事業所（法人）約 65 ヵ所（両市直営含む）を対象とし、より詳細な実態を把握するための設問内容を検討しました
- ・ 実施方法の決定および実施: 複雑な表形式の回答データに対応するため、当初検討していた Google フォーム等のデジタルツールではなく、紙媒体による郵送調査という手法を選択してアンケートを行いました

■現在の到達点や成果

アンケートを実施し、集計をまとめ、その結果を分析している途中の段階です

■今後の方向性や次年度の予定

今後は設計したアンケート実施・集計を行い、その結果をもとに具体的な取組みへと繋げていく予定です。

- ・ 2026 年 1 月~3 月: データの集計および詳細な分析作業
- ・ 次年度以降の方向性: 調査結果から明らかになった人材不足や定着率の課題に対し、活動班としてどのような支援策を講じるべきか、また行政に対してどのような協力体制を求めるか、より具体的なアクションプランの策定について検討する予定です。

V 全体会議

1.令和7年度第1回全体会議および映画「杳かなる」上映会

趣旨・目的

市民一人ひとりが、障害当事者の方に対する理解を深め、地域生活支援や関係機関との連携の必要性や重要性を考え、学ぶ機会として、ドキュメンタリー映画「杳かなる」の上映会を開催し、全体会議の中でも上映しました

	日時	場所	参加者（人）
第1回（上映会）	9月19日 9:45～12:00	長浜まちづくりセンター 多目的ホール	34
（全体会）	9月19日 13:00～16:00	長浜まちづくりセンター 多目的ホール	45

(1) 映画「杳かなる」上映会



↑上映会のチラシ



↑上映会には、地域の民生委員・児童委員や市民の方々に来ていただきました

■上映会アンケート結果

1	・私は主人が早く亡くなり全てにおいて頑張ってきたと思うし、今までも今も精一杯生きていると思うし、「私はいつ死んでもいい、大丈夫。私は精一杯生きたから」と思ったり、言ったりしている。でも、今日「杳かなる」を見て、自分を振り返った。「私はなんと、おごっていたのだろう。」と反省しました。今日を感謝します。
2	・「重度障害、安楽死、生きる意見…」とても難しいテーマですが、考える良い機会になりました。岡部さんも言っていましたが、悩んだり迷ったりすることが生きているということ。生きる意味の答えが見つからなくて、考えること自体に意味がある。私も常々、人は存在するだけで意味があると考えてきましたので、改めてそのことを思いました。
3	・このような病気を初めて知り、学び、目を追って字をつくる事など、なんとたくましくみなさんの力を借りて生きておられるのかと感動しました。ほんのわずかの力で人とのコミュニケーションを保ち自分らしく生きていこうとされるのかと学び感動しました。
4	・突然難病になった時そのことを自分自身が受け止めるまで本当に想像を越える心の葛藤があったことを強く思いました。当事者の方と介護者の方とのつながりが自然で本当にすばらしく思いました。「生きていく」ということはやっぱり楽しくて素敵なことなのだとすることを改めて感じました。佐藤さんはじめ皆さんの笑顔は本当に励みになりました。ありがとうございます。
5	・ALSで人工呼吸器をつけると言葉がでなくなると初めて知りました。ALSは人工呼吸器をつけるものだと思っていました。
6	・考えさせられることが多くありました。ありがとうございました。
7	・とても感動しました。みなさん頑張っておられるんですね。
8	・がんばれ!!ありがとうございました。
9	・支障なく生活できることは恵まれたことだ。障害者の意志を代弁する支援者としてもっと根気強く、慎重に意志をくみ取ることをもっと意識しないといけないと冒頭の「私の考えを勝手に他人に言葉にされたくない」佐藤さんの言葉に考えさせられた。重度障害の方への介助者の少なさを当事者だけでなく、地域社会でどのように改善していくのか大きな課題だ。介助者として、10数年、やりつくしたと思っていたが、まだまだやること、できることがあったと気づかされた。
10	・たいへんな感動ドキュメンタリーすごく胸にきました。自分のこれからのできることを考えたいです。
11	・生と死 生きる事を考えさせられました。正解がないけれど前を向いて生きる事のすばらしさを考える機会となりました。観ることができて良かったです。ありがとうございました。
12	・生きること、死ぬこと、簡単には言えないけれど皆さん頑張っておられるんだなあと思いました。ALSの人たちとあまりかかわったことがなかったが、これを期会にもっと、かかわりたいと思った。劇中に「生きたい人がいるのに生きられない!!その人のためにも生きる」ということばに感動しました。
13	・今年に入り知人がALSであることを知り、この映画会に参加させてもらった。ALS 多くの人が苦しんでいることも知った。また介助者の存在も知ることができた。私も民生委員としてどのようにかかわっていくかこれから考えていきたい。

14	・迷い悩みながら前を向いて生きておられる姿がとても印象的です。あらためて街中の車いすユーザーさんへの冷たさを感じました。お店なども段差が多くて…。もっと国・市・町にもきちんと整備をするべきと訴えていくべきと思いました。
15	・この病気にはなりたくありませんね。人の生命を自分で考えていかねばならないのは地獄ですね。でも頑張っておられて素晴らしい。この情報を初めて見て、自分が幸せを喜ばなければならぬと思います。
16	・「地域移行」という言葉を初めて聞きました。ALS 患者さんとの意志を通わず難しさを強く感じました。ALS 意志をサポートする介護者の方が一人でも多く増えることを強く祈ります。いい映画ありがとうございました。
17	・ALS 現在進行中。これから先が心配です。あと何年かな？明るく生きられるかな。勇気をありがとう。
18	・介助者も当事者、本当にそうだ。色々気づかせてもらいました。自分の人生も見つめ直したい。新しい体験、生きる意味、奥が深すぎます。
19	・バリアフリーの映画は初めて見ました。とても良かったです。ALS の治療法が早く見つかるように祈ります。私も障害者ですし、がんもあります。生きづらい毎日ですが、力をいただきました。ありがとうございました!!

(2) 第1回全体会議

上映会での学びだけでなく、今年度の各専門部会や作業班、プロジェクト会議での活動内容を通して、地域の現状や課題について情報共有を行う場として開催しました



↑ 会長開会挨拶の様子



↑ 新規事業所から自事業所の特色等を紹介している様子



↑ 映画上映の様子



↑ 拠点コーディネーターからの報告の様子



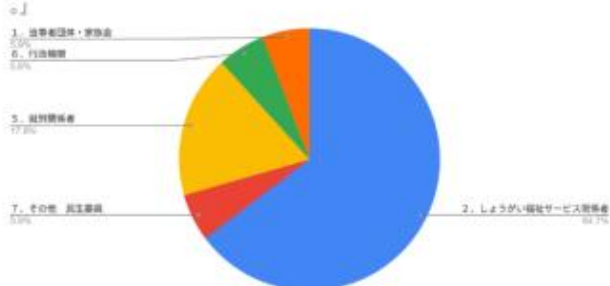
↑ 副会長閉会挨拶の様子

令和7年度第1回全体会 アンケート集計結果 (R7.9.19)

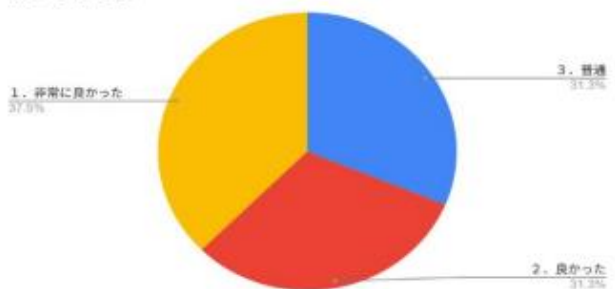
■アンケート

参加者数:45 アンケート対象数:32 アンケート回答数:18 回収率 56.3%

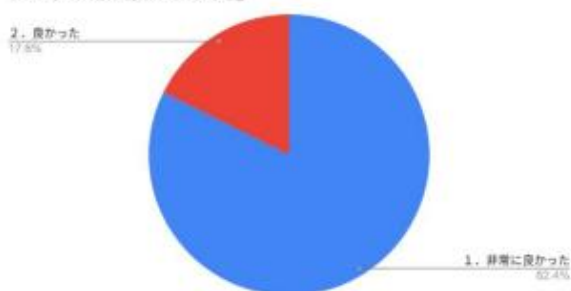
「1. あなたの職種について、該当するものにチェックをお願いします。」



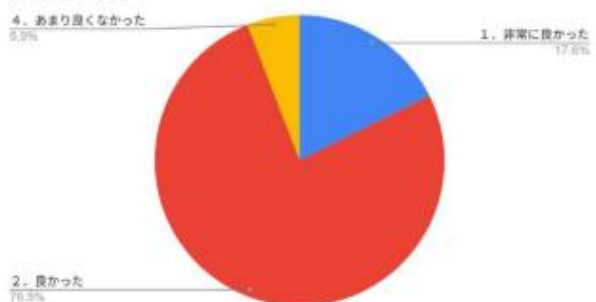
「2. 新規事業所紹介について、該当するものにチェックをお願いします。」



「3. ①映画「春（はる）かなる」について、該当するものにチェックをお願いします。」



「4. ①本日の全体会について、該当するものにチェックをお願いします。」



2 令和7年度第2回全体会議

障害当事者やその家族がより豊かに暮らせる地域づくりを推進するため、障害福祉に関連した湖北地域における実践を共有し、まちづくりの推進、業務改善の工夫、先駆的な取り組みを通じて学び合う実践報告、および今年度、専門部会における活動班やプロジェクト会議での協議・検討内容や取り組み報告を全体会議と位置付けて開催しました

日時	場所	参加数（人）
3月19日 13:00～17:00	長浜まちづくりセンター多目的ホール	57

実践報告会 第1回 湖北地域における実践報告会～実践がひらく地域の未来～

報告テーマ:まちづくりに関する取組、業務改善に関する取組、先駆的取組(新規事業・モデル事業等)

プログラム:1題につき、発表:15分 インターバル:5分

	時間	テーマ	報告者	
①	13:30～13:45	AIを活用した会議録等の作成	湖北基幹相談支援センター	喜田知之
②	13:50～14:05	わだちプロジェクトの取り組み	CILだんない	美濃部裕道
③	14:10～14:25	自閉症支援者養成2daysワークショップ	湖北相談処すだち	川寄誠一
④	14:30～14:45	重度障害児者入浴支援事業	こあゆ・滋賀県社会福祉協議会	園田千鶴・糸谷素子

⑤	14:50~15:05	繋がる まち 湖北	ピットイン	鍵弥寿彦
⑥	15:10~15:25	移動型スナック みんなでつくるスナックO	マルチスイッチ	木村寛子
⑦	15:30~15:45	CAT-Kiteを使用した認知行動療法	湖北相談処すだち	川崎誠一
⑧	15:50~16:05	外部コンサル導入(PECS)について	あそしあ	笠松賢一



↑ 第2回全体会の様子



↑ 新規事業所紹介



↑ → 実践報告の様子





↑ 実践報告会長賞の授与の様子



↑ 会長退任について

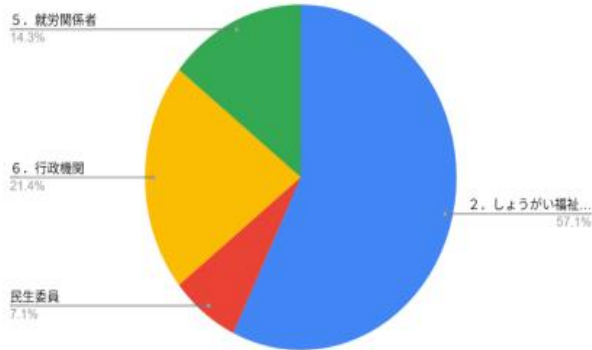


↑ 令和8年度新体制についての報告の様子

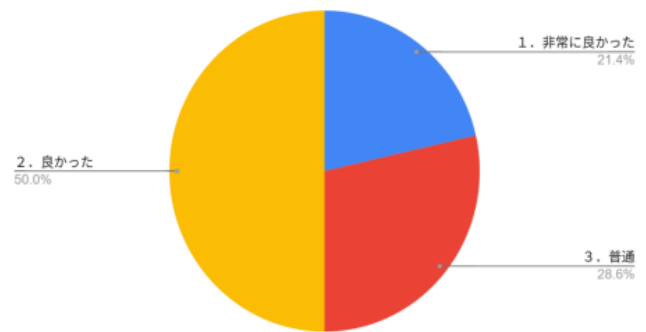
令和7年度第2回長浜米原しょうがい者自立支援協議会全体会アンケート集計結果

参加者:57 アンケート対象:43 回答:14(うち Google フォーム:2用紙:12) (回収率:32.6%)

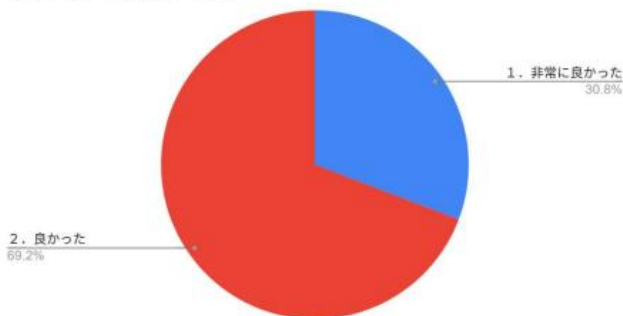
「1・あなたの職種について教えてください



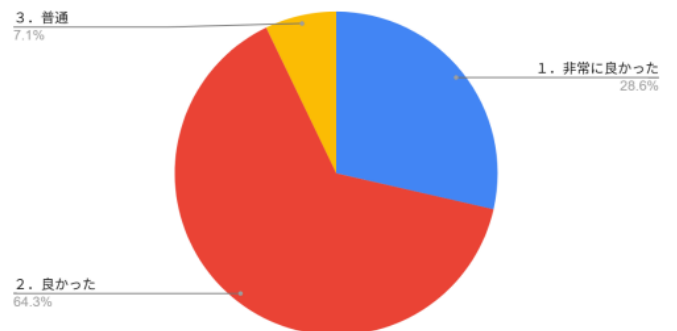
「2. 新規事業所紹介について、該当するものにチェックをお願いします。」のカウント数



「3. 実践報告会について、該当するものにチェックをお願いします。」のカウント数



4. ①本日の全体会の全体を通して、該当するものにチェックをお願いします。



VI その他の会議

■日中サービス支援型共同生活援助評価会議

<定期評価会議>

- ・日時：令和7年8月20日（水）15：45～17：05
- ・対象事業所：ソーシャルインクルーホーム長浜高月/長浜大寺町

<事業計画評価会議（新規）>

- ・日時：令和7年10月15日（水）15：30～16：45
- ・対象事業所：滋賀県障害児協会

VII 事業所等連絡会

■目的

同種別の障害福祉サービスを運営している事業所が集まり、サービス種別ならではの情報共有や意見交換を行いました。課題に対して具体的な協議を実施する専門部会とは役割を分け、気軽に相談、他事業所の取り組みなどの共有が出来ることを期待しています。

■活動実績

○施設入所・GH事業所等連絡会

開催日時：令和7年11月10日（月）10：00～12：00

場所：長浜まちづくりセンター多目的ホール

参加事業所：ひかり福祉会 GH/湖北会はまべ/ひだまり/湖北まこも/ルピナス/グループホームカノン/グループホームエイト/相談支援ミラクルクエスト/相談支援事業所ピットイン/湖北基幹相談支援センターふらっと/拠点コーディネーター/事務局

○学卒関係者連絡会：令和7年7月17日/10月23日/12月18日/令和8年2月26日

参加機関：長浜養護学校/長浜北星高等養護学校/三雲養護学校/鳥居本養護学校/甲南高等養護学校/信楽学園/テクノカレッジ米原/長浜公共職業安定所/長浜市/米原市/基幹相談/はたらき・くらし応援センターこほく

VIII 総括

令和7年度長浜米原しょうがい者自立支援協議会

会議等実施回数	117回以上	(作業班運営会議/事業所等連絡会はカウント除く)
参画延べ人数	1616人以上	

以上

令和8年3月末日

長浜米原しょうがい者自立支援協議会事務局